

CCI

for Dynamics

Version 20240804

I. 特徴

ダイナのテーブルとリンクし、病名もれなどのチェックと病名入力を行うプログラムです。

特徴は以下のとおりです。

- ・ 表示される「適応病名なし」などのメッセージをクリックするだけで、候補病名が一覧表示され、表示された候補病名をクリックするだけで日付とともにダイナに入力できる。
- ・ 病名入力など修正後、すぐにワンクリックで再度チェックすることができ、問題点が残っていれば、直ちに追加修正できる
- ・ 不要とおもわれる病名もリストアップされ、ワンクリックで治癒/中止ができる。
- ・ コメントが必要な項目も表示され、そのまま、コメントを入力できる。
- ・ あらかじめ、プレチェックをおこない問題点のあるカルテのみ次々に表示され処理できるので、個々のカルテをいちいち開いてチェックボタンを押す必要がない。
- ・ プレチェックは 今月受診患者、今週受診患者や 本日受診患者、その他任意の受診期間を指定しての実行が可能。
- ・ カルテ 2 号用紙の内容が同時に表示されるので、カルテの中身を確認しながら作業が出来る。また、ダイナ/RSB との連動も可能。
- ・ 薬品、検査、処置などに対する適応病名の一覧は、ダイナの適応病名テーブルもそのまま、使用可能。
- ・ 適応病名一覧にもれている薬品はそのメッセージをクリックすると、その場で適応病名一覧に入力できる。

- ・ 問題のあるカルテの一覧リストが出せ、紙カルテ中心のクリニックでも紙カルテをあらかじめ出して参照しながらの病名入力ができる。
- ・ ダイナと別のアクセス mdb ファイルのため、バージョンアップ時に再度組み込むなどの手間がない。再リンクのみで可。
- ・ ユーザー独自のレセプトチェックも、クエリ（もしくは SQL）をつくれれば組み込むことができる。
- ・ チェックする前にレセプトの作成は必要としない。

このソフトを使うことにより、ユーザーの指示、ボタンのクリックによりダイナの病名が直接書き換えられることとなります。また、ユーザーのコメントの入力は直接ダイナのメモ欄に入力されます。従って、使用はある程度のリスクを伴います。これまで当院における運用でトラブルはなく、使用いただいている多数の先生方からも致命的なトラブルの報告はありませんが、当方はこのプログラムの運用結果については一切責任をもちません。使用は自己責任ということをお願いします。

まずは ダイナサーバーのコピーで使用感を試してから、本番にのぞんでください。（もちろん、本番の使用は本物のダイナサーバーにリンクしないと意味がありません。）

本プログラムの著作権は放棄しませんが、自院の使用の範囲内での改変は自由です。

なお、RSB 連携/ダイナ連携のコードは、山下郡司先生からご教示いただいたもの（を一部改変したもの）です。

CGI の名称は Check Click Input の頭文字です。安直ですみません。

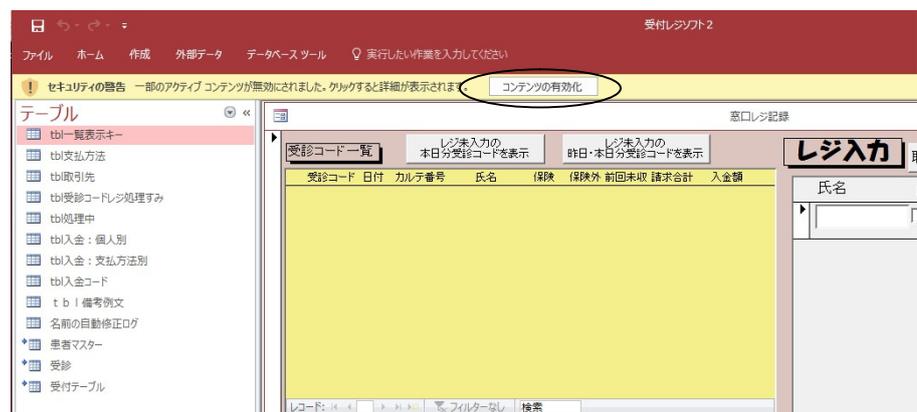
セキュリティの警告などへの対応

初回起動時や 設定などで以下のセキュリティの警告メッセージなどが表示されることがあります。問題ありませんので、それぞれ下記の図のように対応してください。

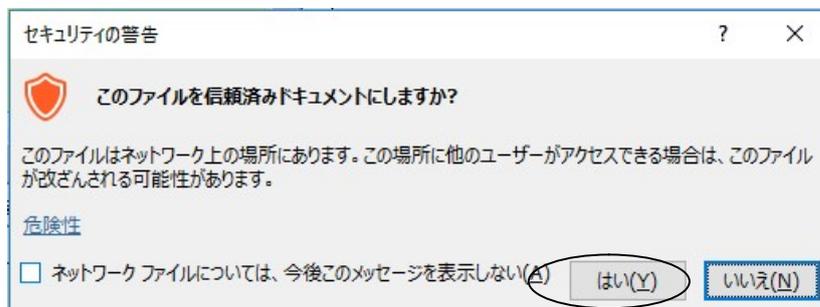
- [マクロのシングルステップ]というメッセージが表示されれば右上の X をクリックして閉じます。



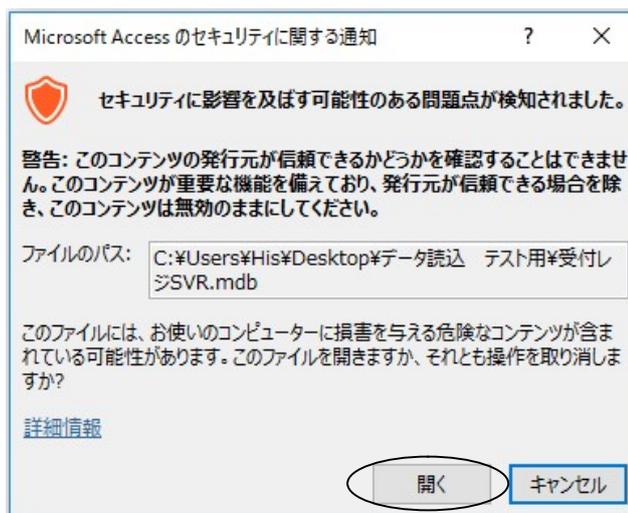
- メニュー付近に「セキュリティの警告」が表示された場合は [コンテンツの有効化ボタン] をクリックしてください。



- [セキュリティの警告] メッセージが表示されたときは [はい] を クリックしてください。



- [Microsoft Access のセキュリティに関する通知] メッセージが表示されたときは [開く] を クリックしてください。
このメッセージはテーブルリンク時など何回もつづけて表示されることがありますが心配いりません。



II. インストールとデータダイナへのリンク

ホームページから、CCI をダウンロードし解凍します。解凍後、万一のサイトの改竄に対する備えとしてウイルスチェックをおこなってください。

適当なフォルダーを作り、そこにダウンロードした CCI.mdb（通常、20080520CCI.mdb などと日付を付加しています）をコピーします。データダイナのあるサーバーPC上での使用がスピード上いいかもしれません。

バージョンアップの場合は古い CCI に上書きして消さないように注意してください（あとで古い CCI から CCI の設定テーブルを読み込みます。）

次に エクスプローラから CCI.mdb をダブルクリックします。

セキュリティ警告について

このときに、Windows や Office/Access バージョンによってはセキュリティの警告がでることがありますが、[開く]ボタン、[続行]ボタンなどを押して操作をつづけてください。（但し、万一のサイトの改竄にそなえてのウイルスチェックをおこなってください。）

起動すると[スタート]画面がひらきます。

セキュリティ警告について

Office2010 では上方のメッセージバーに[セキュリティの警告]が表示されることがあります。[コンテンツの有効化]ボタンを押してください。

同様の操作は

[ファイル]メニュー → [情報]タブ → [コンテンツの有効化]ボタン
→ [すべてのコンテンツを有効にする]

からも行えます。

まず、データダイナのテーブルのリンクをおこないます。

[スタート]画面から[データダイナにリンク設定]ボタンをクリック



→ダイナサーバーを選択し[開くボタン]をクリック。
(もしくは選択するダイナサーバーをダブルクリックでも可)



リンク先サーバー名が表示されるので
OK なら [はい] ボタンを押す。



セキュリティ警告について

このテーブルリンク時に Windows や Office/Access バージョンによっては、

[Microsoft Access のセキュリティに関する通知]

セキュリティに影響をおよぼす可能性のある問題点が
検知されました…

などと表示されます。テーブルひとつをリンクするごとにでるようで 20 回
以上も繰り返し表示されますが、問題ありません。[開く] ボタンを押して
続行してください。

以前、ダイナ ML でタナカ先生からのご指摘どおり、クライアント PC からサ
ーバーにリンクを張る場合、サーバーの名称は 8.3 形式、フォルダー名は 8
文字以内をお勧めします。後述する「プレチェック」にかかる時間にかなり差が
でるようです。

本ソフトはサーバーPCでの使用がいいかもしれません。当方のシステムではプレチェックは、サーバー上で使用し、順調にうごいているときで、一件0.2秒程度かかります。

サーバーやクライアントのダイナをひらいたまま、本ソフトを使用すると、フォームを開くときやプレチェックなどで動作が遅くなり可能性があります。また、ダイナサーバーおよびCCIを最適化するとスピードが上がる場合があります。プレチェック前に（コピーをとった上で）最適化されることをお勧めします。また、CCIを一旦閉じて再度開くと早くなることもあります。

Ⅲ. バージョンアップ の 手順

CCI をバージョンアップしたときには、以前のCCI から設定内容を読み込みます。

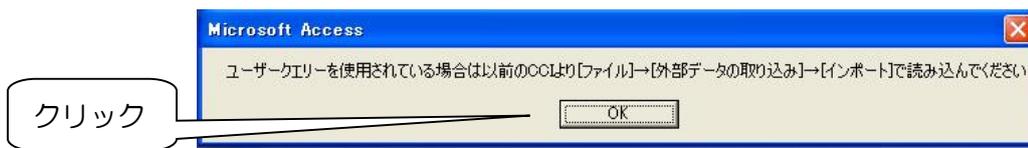
[スタート]画面から[以前のCCI よりテーブル読込]ボタンをクリック





以前の CCI を選択し [開く] ボタンをクリック
(もしくは以前の CCI をダブルクリックでも可)





ユーザークエリなどユーザー独自のクエリは自動的に読み込まれません。メニューより[ファイル]→[外部データの取り込み]→[インポート]などで読み込んでください。

これでバージョンアップは完了です。あたらしい CCI を新たにショートカットを作るなどして使ってください。

以前の CCI は新しい CCI が安定して動作していることが確認されるまでしばらく保存しておいてください。

新バージョンでテーブル形式の変更がおこなわれることがあります。バージョンアップは必ず上記の手順に従い、[以前の CCI よりテーブル読込]ボタンで行ってください。

新バージョンで[設定]画面での設定事項追加されることがあります。念のため、[設定]画面の設定事項の確認をおこなってください。

なお、新旧の CCI は独立して使用ができます。

補足) 複数の CCI を使うには

通常、CCI は一個のみインストールして使用しますが、場合によっては複数の CCI をインストールして作業することもできます。

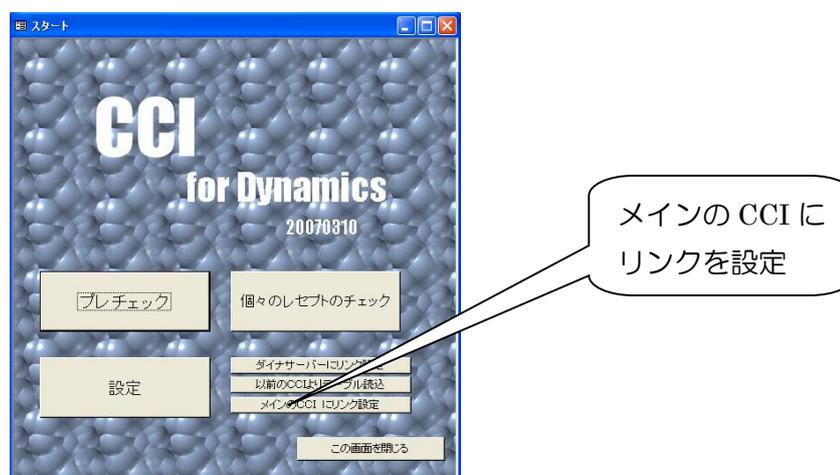
CCI はダイナサーバーのテーブルにリンクして使用しますが、レセプトチェックの結果を保持するテーブル、薬品などの適応病名を記録したテーブル、各種設定のテーブルなど CCI 独自のテーブルをもっています。

→ CCI のデータベースウィンドウで 頭に tbl のついたテーブルが CCI 独自のテーブル、それ以外のテーブル（頭にリンクを示す矢印がついています）が、リンクされたダイナサーバーのテーブルです。

複数の CCI それぞれにこれら（頭に tbl のついた）CCI 独自のテーブルをもたせたままの運用も考えられます。この場合は、単に複数の PC に CCI をインストールしてそれぞれダイ

サーバにリンクをはるだけです。しかし、この場合、ひとつの CCI でのプレチェック（後述）の結果を他の PC では使えないなどの不便が出てきます。

一方、プレチェックを速く行うために、メインの CCI をダイナサーバと同じ PC にのせ、メインの CCI でプレチェックをおこなったあと、別の PC でゆっくり病名入力をするといった使い方が考えられます。このためには、CCI 独自のテーブルをもつメインの CCI（いわば CCI サーバ）に他の CCI からリンクをはって使う方法が考えられます。そのリンクをはるボタンが「スタート」画面の[メインの CCI にリンク設定]ボタンです。



サブの CCI からこのボタンを押し、メインの CCI にリンクをはってください。（もちろん、ダイナサーバにもリンクが必要です。）

ただし、ダイナクライアント複数の同時使用時と同じように、同一レコードへの同時アクセスはデータベースに障害を起こす恐れがあり、運用上の工夫が必要でしょうし、ネットワークのための速度の低下も考えられます。どなたか、ためしに使用いただき、使用感をお聞かせ願えれば幸いです。

IV. CCI のアンインストール

CCI.mdb ファイルの削除のみで OK です。

V. ためしに試してみる

A. カルテのプレチェック

このステップでは、受診期間を指定してその期間の患者さんのカルテをあらかじめまとめてチェックします。

<注>カルテをあらかじめチェックしている理由は、チェックが必要なカルテのみを抽出するためと、カルテのチェック時に次のカルテに移る時のスピードを速くするためです。

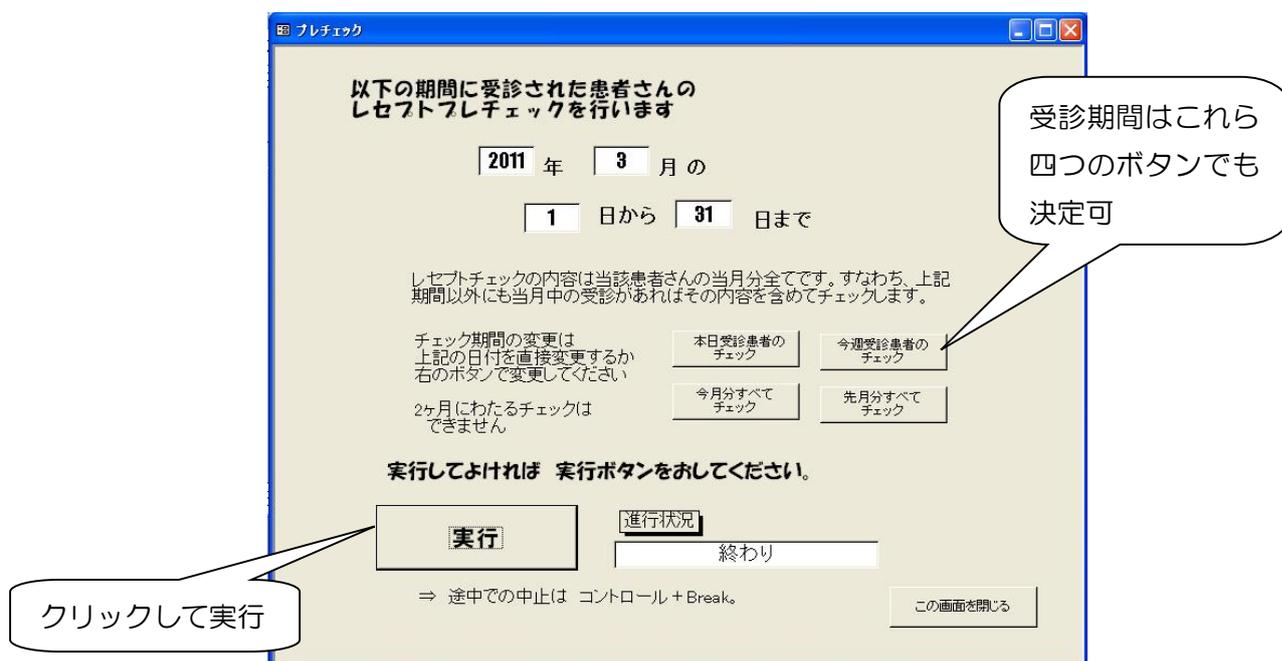
[スタート] 画面の [プレチェック] ボタンをクリック



[プレチェック]画面が開きます。

プレチェックの期間を指定して、クリックボタンを押します。

期間の指定は当初当月一杯が指定されています。変更は日付を直接入力しますが、中央 右側の4個のボタンでも指定可能です。



チェックする内容は

指定の期間に受診した患者さんの、
当月全ての診療内容です。

(つまり、その患者さんが指定の期間以外の日付にも受診されていれば、
そのときの受診内容もチェックされます)

当方のシステムではレセプト一件平均 0.2 秒程度の処理速度となるようです。

実行中は進行状況の窓に 処理中のカルテ番号 (枝番号も表示) が表示され、
途中での中止は Ctrl キーを押しながら Break キーを押します。)

終了すると「終わり」と表示されます。



終了したら、右最下の [この画面を閉じる] ボタンで、この画面を閉じます。

[参考]

チェックした内容は テーブル[tbl レセプトチェック結果]に書き出します。[実行]ボタンが押されるたびに、[tbl レセプトチェック結果]の古い内容はクリアされ新しく書き直されます

このテーブルには保険者番号などの欄もありますが現在この欄への書き出しは行

っておりません。

B. 個々のレセプトのチェックと病名の入力など

ここからがレセプトのチェックの本番です。

[スタート] 画面の [個々のレセプトをチェック] ボタンをクリック

→ [個々のレセプトのチェック] 画面 が開きます。

次の患者さんへ移動

レセプトチェック結果

病名

カルテ内容

診療備忘録(短期メモ)

一人一人の患者さんの

レセプトチェック結果

病名

カルテ内容

診療備忘録(短期メモ) (ダイナの診療備忘録(短期メモ)と同じ) など

が表示されます。

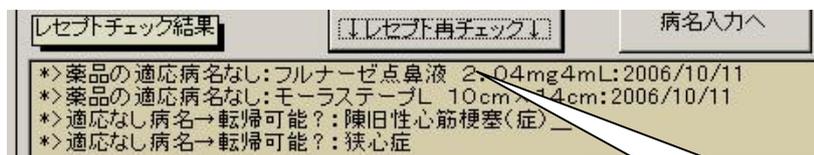
まず画面上部の右向きの矢印ボタンで次の患者さんへ移動できることを確認してください。

左向きの矢印ボタンで前の患者に戻れます。

ために[レセプトチェック結果] の欄に「薬品の適応病名なし:(薬品名):(日付)」とい

うメッセージのある患者さんまで移動してみてください。(注. 日付はその薬品のその月の初回投与日です)

この表示のある薬品の適応病名を入力してみます。[レセプトチェック結果]の「薬品の適応病名なし：(薬品名)：(日付)」という行そのものをクリックしてください。



→ [病名入力] 画面 が開きます。

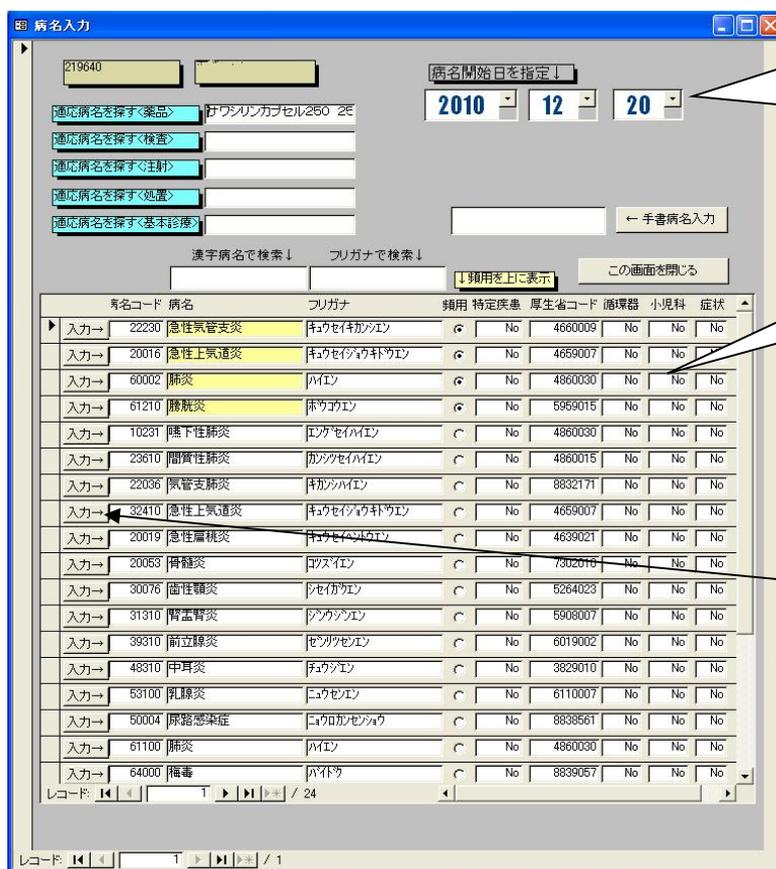
右上のカレンダーにはこの薬品の（その月の）初回投与日が表示されています。

下の病名欄には、入力病名候補が表示されます

→ 入力したい病名の[入力→]ボタンをクリックします。

この行をクリック

この薬品の初回投与日
→ 病名開始日として
入力されます。但し、
この日付は自由に変更
可能です。



入力病名の候補が表示
されます。

入力したい病名の
[入力→]ボタンをクリック

→ 各病名の横の候補ボタンで [個々のレセプトのチェック] 画面 に自動的に戻ります。

→ 指定した病名が[個々のレセプトのチェック] 画面の病名欄に
初回投与日の日付で入力されているはずですが。

また[↓レセプト再チェック↓]ボタンをクリックしてみてください。

[レセプトチェック結果]の対応する「薬品の適応病名なし：(薬品名)：(日付)」というメッセージが消えるはずです。

指定した病名が日付とともに入力されている

[↓レセプト再チェック↓]ボタンをクリックすると

「薬品の適応病名なし：(薬品名)：(日付)」というメッセージが消える

このようにレセプトチェック結果に対し、ユーザーが病名の入力、治癒や中止の確定などの処理を簡単に行うことができ、さらにワンクリックで再度レセプトチェックを行い適切な修正をおこなったかをチェックできます。

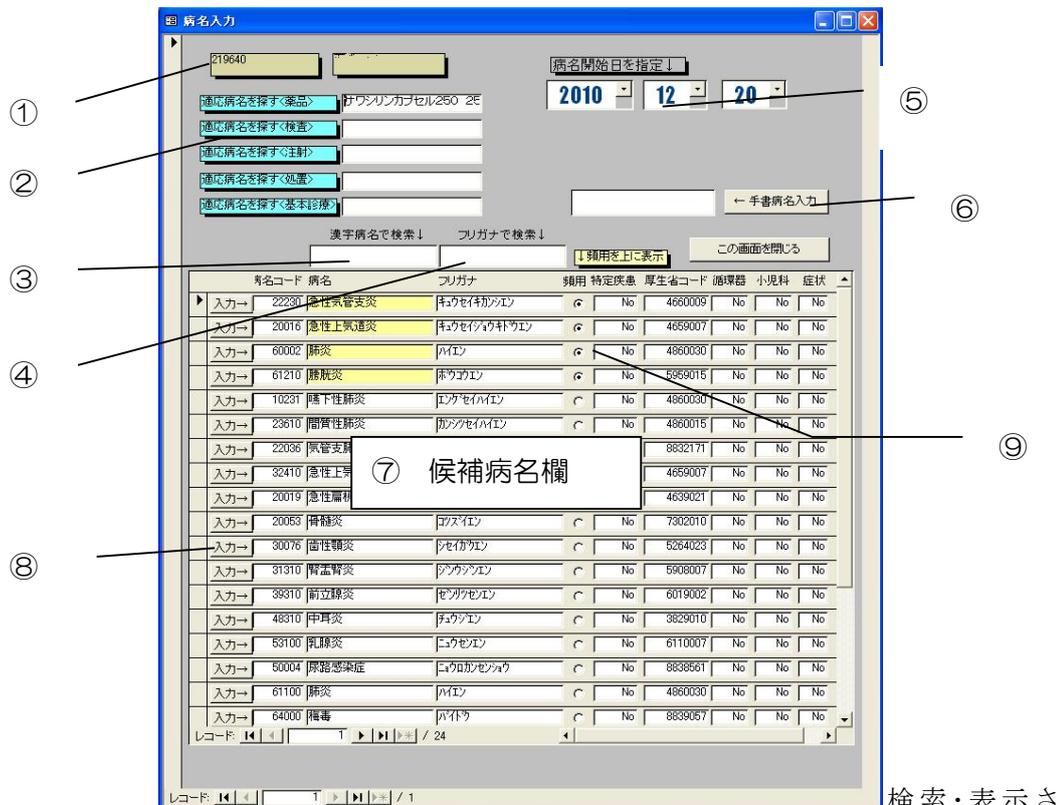
以上大体の使い心地がおわかりいただけましたでしょうか？

VI. 各画面の詳細説明

A. [病名入力]画面の詳細説明

まずは、[病名入力]画面の説明をおこないます。

もし、PCの上で[病名入力]画面がひらいてなければ、上記のように[レセプトチェック結果]内の「薬品の適応病名なし」などの適当なメッセージをクリックするか、[レセプトチェック結果]欄の右上にある[病名入力へ]ボタンをひらくと[病名入力]画面がひらきますのでご参照ください。



検索・表示された病名の中から入力したい病名を選び、各病名の横の⑧[入力→]ボタンで入力できます

- ① 患者さんのカルテ番号氏名を表示
- ② 適応病名をさがす薬品、検査などを表示（通常気にする必要はありません）
- ③ [漢字病名で検索]欄 および ④[フリガナで検索]欄

自動で表示される候補病名以外の病名を探して入力するには、[漢字病名で検索]欄に病名の一部を、あるいは [フリガナで検索]欄に病名の一部をカタカナでいれると、入力した文字をふくむ病名が全て⑦候補病名欄に表示されます。（通常は[フリガナで検索]が便利です。）

検索・表示された病名の中から入力したい病名を選び、
各病名の横の⑧[入力→]ボタンで入力できます

注意：厚生省病名マスターのフリガナは拗音などの表記が統一されていません。キョウシンショウ、キョウシンショウなどとなっています。当ソフトでは拗音、吃音を通常の文字に変換して検索し、検索もれがないようにしています。しかし、もし、目的とする病名が表示されない場合は、拗音をき

ちんちんと入れてみる、[漢字病名で検索]欄に漢字で入力してみるなど他の入力のやり方をためしてください。それでも、表示されない場合は目的とする病名がダイナの病名マスターに登録されているか、もう一度ご確認ください。

⑤ [病名開始日を指定↓]

[入力→]ボタンをクリックして病名入力するときに入力される開始日を指定します。

[個々のレセプトのチェック]画面の[レセプトチェック結果]を各メッセージをクリックしたときはそのメッセージに表示されている日付（薬の最初の処方日、検査施行日など）が自動的に入力されますし、自分で日付をクリックして指定することもできます。

もちろん、開始日はあとで[個々のレセプトのチェック]画面の病名欄で直接変更も出来ます。

⑥ [←手書き病名入力]ボタン

病名マスターにない病名の入力には手書き病名入力ができます。[←手書き病名入力]ボタンの左側の欄に病名を入力し[←手書き病名入力]ボタンをクリックしてください。（⑤での日付指定も忘れずに。）

注）病名チェックは文字列の検索（部分一致）でおこなうので当ソフトでは手書き病名入力された病名も問題なく認識します。但し、手書き病名入力では病名コードは入力されません。

⑦ 候補病名欄

[レセプトチェック結果]の各メッセージをクリックすることで薬品などの適応病名が自動的に、また、③[漢字病名で検索]や④[フリガナで検索]で検索すると対応する（文字列として「部分一致」する）病名が、表示されます。

⑧ [入力→]ボタン

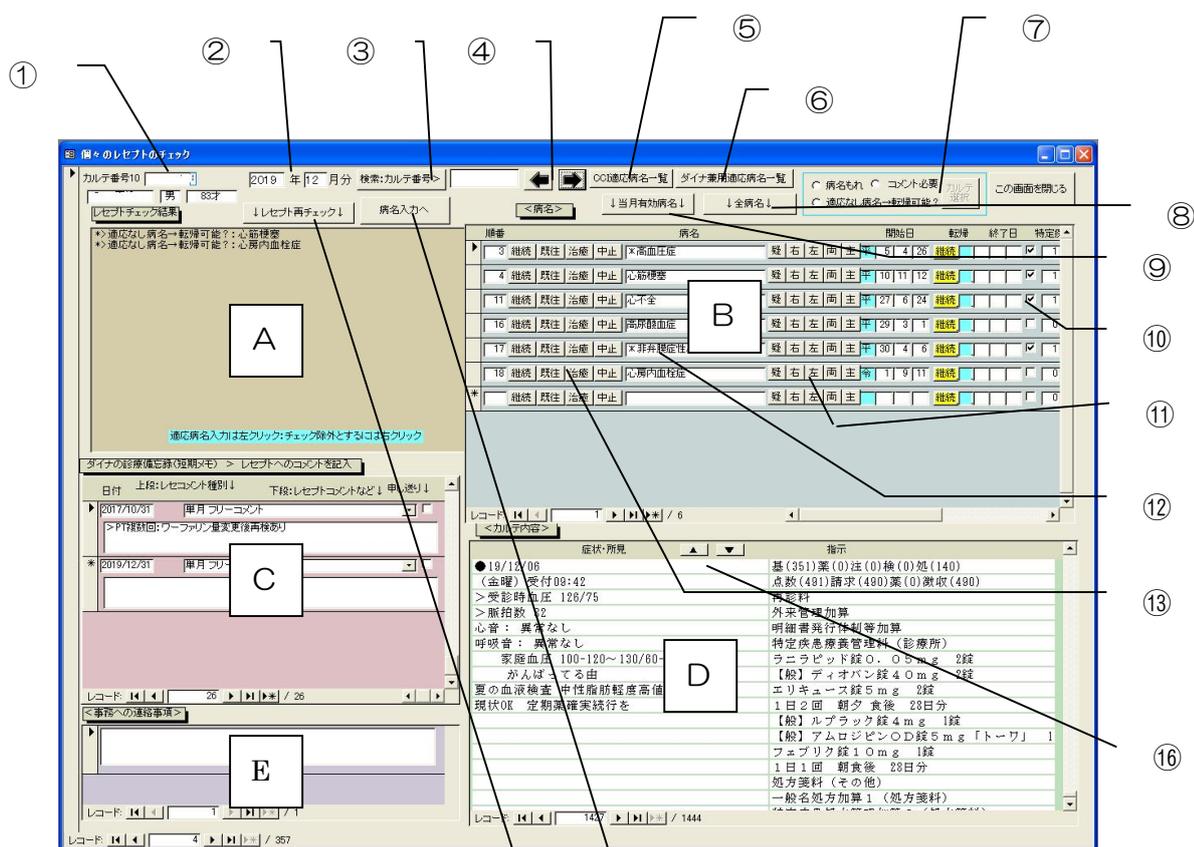
各病名を、⑤カレンダーの日付を開始日として、ダイナに入力します。もちろん、病名コードも同時に入力されます。このボタンを押すと、病名入力と同時に[個々のレセプトのチェック]画面にもどり次の操作ができます。

⑨ [頻用]欄

この頻用欄にチェックをいれると、病名欄の上に黄で表示され、入力時に病名の選択が容易になります。ダイナの[病名マスター]画面の[頻用]欄と共通です。

B. [個々のレセプトのチェック]画面の詳細説明

[個々のレセプトのチェック]画面を説明します。もし、この画面が開いてなければ、スタート画面から、[個々のレセプトのチェック]ボタンを押してください。



まず、五つのエリア[A]~[E]の説明です。

[A] : [レセプトチェック結果]欄

プレチェックでのチェック結果が表示されます。

また病名入力などの修正後に、この欄のすぐ上の⑮[↓レセプト再チェック↓]ボタンを押すと再度レセプトチェック結果が表示されます。これにより、病名入力などの修正が適切かその場で確認できます。

この欄に表示される種々のレセプトチェック結果のメッセージをクリックすることで、メッセージの内容に応じて[病名入力]画面が開くなどしますので病名入力など次の操作に移ることができます。

この欄に表示される種々のレセプトチェック結果の意味および対処方法は

C. [レセプトチェック結果]欄に表示されるメッセージの意味と対処方法を参照ください。

B: 病名欄

現在入力されている病名が表示されます。

通常は現在、当月有効な病名のみですが ⑧[全病名]ボタンを押すことでこれまでの（治癒、中止した病名を含む）全病名を表示できます。また、⑦[当月有効病名]ボタンを押すことでふたたび当月有効な病名のみを表示できます。

この欄内の各ボタンの機能については以下に記載している各ボタンの項目についての説明をご覧ください。

C: [診療備忘録(短期メモ)]欄

ダイナの[診療備忘録(短期メモ)]をこの欄に表示しています。したがって、ここにレセプトに表示するコメントを入力できます。

コメントを入力するには、日付欄に表示したいレセプトの日付を入力（年月のみ合っていれば可）、コメントを入力、申し送りのチェックは OFF、コメントの表示が今月のみであればレセコメントを「単月」に、毎月であれば「毎月」にします。

本ソフトではレセプト単月のコメント入力となるように既定値を設定しています。

ここに事務への連絡なども入力できます。詳細はダイナのマニュアルの[診療備忘録(短期メモ)]の項目を参照ください。

D: カルテの内容表示

ダイナの 2 号用紙欄が表示されます。病名入力の参考にしてください。

ダイナの 2 号用紙の表示ですのでダイナの「書き込み」をしておく必要があります。

なお、レセプトの作成は不要です。

E : 事務への連絡事項

この欄への入力 は 年、月、カルテ番号とともに本ソフト内のテーブル[t b 1 事務への連絡事項]に転記されます。当院での使用のために作りましたが、通常は事務への連絡などは診療備忘録(短期メモ)が使われたらいかがでしょうか。

次に、上の図の①-⑮で示されているボタンやテキストボックスの説明です。

- ① カルテ番号 10 — 枝番つきカルテ番号を表示
氏名 — 患者氏名を表示
- ② レセプトチェックをおこなっている年月を表示
- ③ [検索：カルテ番号>]ボタン

右側のテキストボックスに（枝番を含まない）カルテ番号をいれてボタンをおすとそのカルテに移動します。（テキストボックスにカルテ番号をいれリターンをおしても同じ動作をします。）

但し、⑦[カルテ選択]ボタンで選択されるカルテの中にそのカルテがふくまれてないと移動は行われません。この場合、その患者さんがその月に受診していれば、以下の方法でその月受診の患者さんのすべてのカルテを選択すれば、表示することが可能です。

→ すべての患者さんのカルテを選択するには

⑦右側の [病名もれ]、[コメント必要]、[適応なし病名→転帰可能]の三つのボタンのチェックをはずし、カルテ選択ボタンをおします。（下記⑦[カルテ選択]ボタンの項参照）

- ④ 前後のカルテに移動するボタンです。
- ⑤ [C C I 専用適応病名一覧]ボタン ⑥[ダイナ適応病名一覧]ボタン
薬品、検査、その他の適応病名の漏れのチェックで使用される適応病名一覧を表示す
画面に飛びます。詳細は **VII** の **D**. 適応病名一覧の整備をご参照ください。

⑦ [カルテ選択]ボタン

三つのオプションボタンで表示するカルテを選択し、[カルテ選択]ボタンをクリックしてください。以下のように表示するカルテが選択され④の矢印ボタンで次々に表示できます。

[病名もれ] オプションボタンが ON なら

薬品などの適応病名なし

病名ひとつもなし

初診日に初診病名なし

初診日に終了してない病名あり

薬品リストになし

など 病名の入力/転帰記入、その他変更等が必須と思われるレセプトチェック結果を持つカルテを表示します。

(そのカルテに上記以外のレセプトチェック結果があれば
それも全て表示されます)

[コメント必要] オプションボタンが ON なら

コメント必要項目

が レセプトチェック結果にあるカルテを表示します。

(そのカルテに上記以外のレセプトチェック結果があれば
それも全て表示されます)

[適応なし病名→転帰可能?] オプションボタンが ON なら

古い急性病名あり

古い疑い病名あり

適応なし病名→転帰可能?

が レセプトチェック結果にあるカルテを表示します。

(そのカルテに上記以外のレセプトチェック結果があれば
それも全て表示されます)

参考) このオプションで表示される結果、古い急性病名あり、古い疑い病名あり等は、かならずしも減査定にはつながりません。このオプションを ON

にした場合に表示されるカルテがあまりに多すぎる場合には、このオプションを OFF にしてもいいかもしれません。

それぞれのオプションボタンは同時に ON にできます。また、3 つとも OFF なら（チェック結果が空欄の患者さん（すなわち、レセプトチェックで問題のない患者さん）をふくめ全てのカルテを表示します。（もちろん、プレチェックで指定された受診期間内に受診した患者さんのカルテです。）

必要なオプションボタンを ON にして[カルテ選択]ボタンをクリックしてください。

[参考]

この 3 個のオプションボタンのデフォルトの値 すなわち

[個々のレセプトチェック]画面をひらいたときに有効な値は

[スタート]画面 → [設定]ボタン → [設定]画面 の

[個々のレセプトチェック画面のカルテ選択のデフォルト指定] で

変更可能です。

⑧[全病名]ボタンを押すことで

これまでの全病名（治癒、中止した病名を含む）を表示できます。したがって、一旦「治癒」や「中止」とし表示されなくなった病名をこれで表示し、再度、「継続」などとすることができます。

⑨[当月有効病名]ボタン

当月有効な病名のみを病名欄に表示できます。最初はこの状態で表示されます。

なお、病名を中止、治癒しても、病名欄にはそのまま表示されています。確認のためにはこのボタンをクリックします。

なお、[既往]とした場合はこのボタンで表示はされますが、レセプトには記載されません。

⑩ 特定疾患表示欄

右側のボックス内の数字の 1 は厚生省の指定する特定疾患であることを示し、0 は特定疾患でないことを示します。左側のチェックボックスにチェックがはいっていると特定疾患として扱われダイナで初診日などをもとに特定疾患管理料などが算定されます。下記の[疑]ボタンなどで「の疑い」をつけるとこのチェックは自動的にはずれます。

⑪ [疑] ボタン

「の疑い」を病名の末尾に付けたい場合はこの[疑]ボタンをクリックしてください。「の疑い」のレセ電対応の修飾語コードとともに、付加されます。逆に「の疑い」を消す場合も[疑]ボタンをクリックしてください。トグルで動作します。

以前の修飾語コードなしの「の疑い」、「疑い」、「疑」が入力されている場合も、このボタンで消すことができます。つまり、以前のコードなしの「の疑い」、「疑い」、「疑」を修飾語コードとともにあらためて入力するにはこのボタンを2度押せばいいことになります。

特定疾患のチェックも同時におこないます。すなわち、特定疾患の場合には「の疑い」をつける場合は特定疾患のチェックボックスのチェックがはずれ、「の疑い」を外す場合はチェックが入ります。

[右] ボタン、[左] ボタン、[両] ボタン

「右」、「左」、「両」を病名の先頭につけたい場合に、押してください。修飾語コードとともに、付加されます。逆に「右」、「左」、「両」を消す場合も[右]ボタン、[左]ボタン、[両]ボタンボタンをクリックしてください。トグルで動作します。

以前の修飾語コードなしの「右」、「左」、「両」が入力されている場合も、このボタンで消すことができます。つまり、以前のコードなしの「右」、「左」、「両」を修飾語コードとともにあらためて入力するにはこのボタンを2度押せばいいことになります。

但し、患者病名の本体であるいわゆるダイナ病名に「右」、「左」、「両」が含まれている場合（たとえば、右脚ブロック など）や、コード化された修飾語の一部に「右」、「左」、「両」が含まれている場合（たとえば 両側 など）は、消すことができませんのでメッセージを表示して処理を中止します。病名変更は、病名削除して再入力するなどの方法でおこなってください。

「主」 ボタン

主病名にするときにクリックします。ダイナでは主病名の表示は

- ① 病名の前または後に
- ② 全角 または 半角の
- ③ * (アスタリスク) もしくは _ (アンダースコア)

をつけます。すなわち、2 x 2 x 2の8通りの表示があります。この「主」ボタンを押したとき、この8通りのうち、どれを使うかは[設定]画面の右上で指定します。

逆に主病名をはずすときもこのボタンを押します。トグルで動作します。[設定]画面の右上で指定した表示方法以外の主病名表示でもこのボタンで消せます。したがっ

て、[設定]画面で指定した表示方法以外の表示を、[設定]画面で指定した表示に改めたいときはこのボタンを2度押せばいいことになります。

⑫ 病名欄

各病名欄の右クリックで修飾語の入力のための[病名操作]画面へ移動します。

⑬ [治癒]ボタン、[中止]ボタン、[継続]ボタン、[既往]ボタン

[個々のレセプトのチェック]画面の病名欄の[治癒]、[中止]ボタンで治癒、中止ができます。また、再度、継続としたい場合には[継続]ボタンをクリックしてください。

[レセプトチェック結果]に「適応なし病名→転帰可能?:(病名)」のコメントがある場合など、この方法で治癒、中止して下さい。但し、「適応なし病名→転帰可能?:(病名)」のコメントは、検査、薬品の適応病名となることが設定画面で設定される月数なかったということを示しているだけです。治癒、中止は状況に応じて行ってください。

治癒、中止の転帰日は、レセプトチェックをしている月より以前の、最後の受診月の最終日としています。

→現在の枝番のカルテに以前の受診がなければ、他の枝番のカルテも探します。
他の枝番のカルテにも以前の受診がない場合（ダイナの使いはじめ?）、前月末日を転帰日とします。

但し、今月開始の病名はの転帰日はその月の末日になります。但し、[設定]画面で

『 [個々のレセプトチェック]画面で[治癒/中止]ボタンを押したとき
今月開始の病名は転帰日をボタンを押した日にする 』

のチェックをいれると、転帰日は[治癒]ボタン[中止]ボタンを押した日になります。

[既往]ボタンは病名を既往にします。すなわち、ダイナおよび CCI で病名欄に表示されますがレセプトには記載されません。

なお、入力ミスなどで病名自体を完全に削除してしまいたい場合は レコードを選択して delete キーを押してください。

⑭ [病名入力へ] ボタン

病名入力画面へ移動します。

⑮ [↓レセプト再チェック↓] ボタン

再度レセプトのチェックを行い **A**: [レセプトチェック結果] 欄にその結果を表示します。病名入力などのあと、このボタンを行い、入力を適切におこなったかチェックします。

⑯ ▲▼ ボタン

カルテ内容の表示を 前後の日付に移動します。

細かい表示位置調整は右がわのスクロールバーを使用してください。

C. [レセプトチェック結果] 欄に表示されるメッセージの意味と対処方法

「薬品の適応病名なし：(薬品名)：(日付)」

(意味)

その患者の病名としてその薬品の適応病名が入力されていないことをしめすメッセージです。

各薬品の適応病名は「CCI 適応病名一覧」および ダイナの適応病名一覧（「DYNA 兼用適応病名一覧」）から検索しチェックされます。

日付はその月で最初にその薬品が使われた日付です。

なお、ダイナの処方欄に「記録のみ」の行があれば、その行以後の薬品はチェックされません。

論理式をつかった複合適応病名（例：スタチン・Ca 拮抗薬合剤にたいしての「高血圧 And 高コレステロール血症」など）が適応病名として入力されている場合には、参考としてその複合適応病名が表示されます。

(対処方法)

i. 適応病名リストから病名を入力する

「薬品の適応病名なし：(薬品名)：(日付)」のメッセージそのものを
クリックする

→ [病名入力フォーム]がひらき、

候補病名欄に(薬品名)の適応病名が列挙されます。

日付欄にはその月で最初にその薬品が使われた日付が
自動的に入力されます。

→ 適応病名から適切な病名をクリックして入力します。

候補病名欄に列挙される(薬品名)の適応病名には論理式をつかった複
合適応病名に含まれる病名(Notがついてないもの)もふくまれます。
す。

マスターに登録されていない病名を入力するには⑥[←手書病名入力]ボタ
ンを使用してください。

注) 病名チェックは文字列の検索(部分一致)でおこなうので当ソフト
では手書病名入力された病名も問題なく認識します。但し、
手書病名入力では病名コードは入力されません。レセ電に対応
する意味からも病名マスターを整備の上、⑦候補病名欄から入
力されるほうがよいと思われます。

ii. 適応病名があるがこのメッセージが出ている

→ この薬品の適応病名に追加する。

→ ⑤ [C C I 適応病名一覧]ボタン ⑥ [ダイナ兼用適応病名一覧]ボ
タンで適応病名一覧を開き、適応病名一覧に病名を追加する。

(詳細はVI. 適応病名一覧の整備 を参照ください。)

iii. このメッセージを以後出さないようにする。

→ 病名を入力したりせずにこの行が再度のチェック時に出ないようにする
にはこのメッセージを \square をクリックする。

→ [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面が開きますので非表
示の期間をボタンで設定します。詳細は D. [レセプトチェックメッセー

ジの非表示の設定]画面の説明を参照してください。

* 検査などに対する適応病名なしのメッセージも同様に対応してください。

「薬品の適応病名一覧に薬品名なし：(薬品名) [(ダイナコード)]：(日付)」

(意味)

CCI (当ソフト) 専用の適応病名一覧およびダイナの適応病名一覧 (ダイナのテーブル[病名対薬]) いずれにもこの薬品名がありません。

(対応方法)

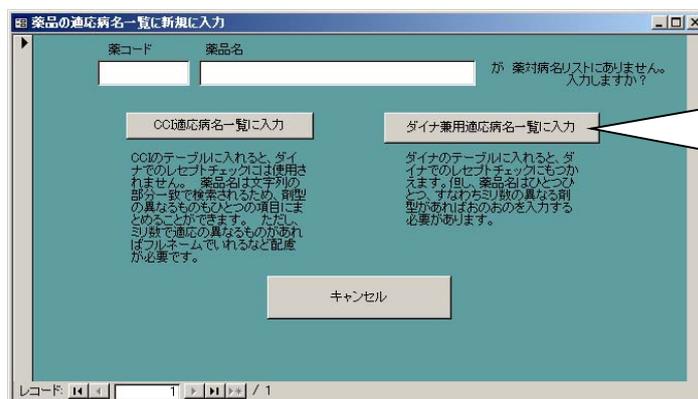
適応病名一覧に薬品名および適応病名を病名を入力する

→「薬品の適応病名一覧に薬品名なし：(薬品名) [(ダイナコード)]：(日付)」

のメッセージをクリックする。

→[薬品の適応病名一覧に新規に入力]がひらく

→[CCI 適応病名一覧][ダイナ兼用適応病名一覧]いずれかのボタンを押し
薬品名および適応病名を入力する



いずれかの
ボタンをク
リックして
適応を入力
する画面へ

適応病名一覧の使いわけ、適応病名の入力画面などは

詳細は **Ⅶ** の **D**. 適応病名一覧の整備 を参照ください。

注) 「薬品の適応病名一覧に薬品名なし」のメッセージは薬品に対してのみ出力されます。検査その他には同様のメッセージはできません。すなわち、適応病名一覧に入力されていない検査などは無視されます。

「初診日に病名なし：(日付)」

(意味)

初診料を算定している日に開始される病名がありません。

(対応方法)

この日付で病名を入力します。

→ 「初診日に病名なし：(日付)」のメッセージをクリック

→ [病名入力]画面が開きます

すでにカレンダーに初診日が設定されています。

→ 病名検索などで候補病名を出し入力します。

(手書病名入力もできますが、手書病名入力ではコードが入力されません)

ヒント：初診日に処方や検査があり、「薬品の適応病名なし：(薬品名)：(日付)」などのコメントが同時に表示されていればこれをクリックして表示される病名からクリックして病名入力するのが簡単です。

「初診日に終了してない病名あり：(病名)」

(意味)

初診料を算定している日以前の病名で、転帰が継続になっているか、転帰日が初診料を算定している日よりあとになっている病名があります。

(対応方法)

初診料を算定している日より前の日付で転帰させてください。

→ [治癒][中止]ボタンをクリックし転帰させる。

もし、必要なら日付を修正する。

「病名ひとつもなし」

(意味)

当月に有効な病名がありません。

(対応方法)

⑭[病名入力へ]ボタンで[病名入力]画面に移り、病名検索などで候補病名を出し入力します。

「コメント必要項目：(項目名)-出現 () 回」

(意味)

必要なコメントが入力されていない可能性があります。

すなわち

Ⅶ の **H.** で説明している[コメント必要項目]設定画面で設定したコメント必要項目が同画面の [出現回数] にあげられている回数以上

にカルテ上にあらわれていますが、同項目に対し指定されている [コメントフレーズ] 欄の文字がダイナにコメントとして入力されていません。

コメント必要項目のカルテ上の [出現回数] については

検査、処置・手術・リハビリ、基本診療 については
数量欄の値の和で

処方、注射についてはレコードの数で判断しています。

(つまり、投薬の錠数、注射の本数では数えません)

(対応方法)

i. このメッセージをクリックすると、

[コメント必要項目]画面の

[コメント種類] および[コメントフレーズ] 欄の文字列が、

: [診療備忘録(短期メモ)]欄にコメントとして入力されます。
引き続き、コメントを完成させてください。

ii. コメントを入力せず再度レセプトチェックしてもこのメッセージを出さないようにするにはこのメッセージ自体を クリックすると [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面が開きますので非表示の期間をボタンで設定します。詳細は D. [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面の説明を参照してください。

「不要コメント?: (コメント種類:) (コメント)」

(意味)

不要なコメントが入力されている可能性があります。

すなわち、

Ⅶ の **H.** で説明している [コメント必要項目]設定画面で設定したコメント必要項目が同画面の [出現回数] にあげられている回数以上にカルテ上にあらわれていないのに : [診療備忘録(短期メモ)]欄に [コメント必要項目]画面にあげられているコメントが入力されています。

(対応方法)

C : [診療備忘録(短期メモ)]欄のコメントが不要なら
そのコメントを削除するか もしくは
[レセコメント種別] 欄を「なし」「単月」等に変更してください。

「古い急性病名：(病名)」

(意味)

[設定]画面で設定される月数以上まえの開始日以前の急性病名があります。

(対応方法)

- i. 可能なら急性病名を転帰させます。
- ii. もし、病名を残しておきたい場合、同じメッセージが再度のチェックのときに出ないようにするには、このメッセージ自体を**右**クリックすると[レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面が開きますので非表示の期間をボタンで設定します。詳細は D. [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面の説明を参照してください。

「古い疑い病名あり：(病名) 疑い」

(意味)

[設定]画面で設定される月数以上まえの開始日の疑い病名があります。設定される月数が1の場合、1ヶ月前(前月)以前の開始の疑い病名でこのメッセージがでます。

(対応方法)

- i. 転帰していいなら[中止]ボタンなどで転帰します。
- ii. 病名を残しておきたい場合、同じメッセージが再度のチェックのときに出ないようにするには、このメッセージ自体を**右**クリックすると[レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面が開きますので非表示の期間をボタンで設定します。詳細は D. [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面の説明を参照してください。

「適応なし病名→転帰可能? : (病名)」

(意味)

[設定]画面で設定される月数以上、薬品や検査などの適応に該当しない病名があります。すなわち、レセプト上ではこの病名は不要で転帰できる可能性があります。

たとえば、設定された月数が1の場合、レセプトチェック当月に適応

病名に該当しないとき、2の場合、前月以後（つまり前月および当月）に適応病名に該当しないときにこのメッセージがでます。

(対応方法)

- i. この病名が治癒/中止可能なら[治癒]ボタンで治癒、[中止]ボタンで中止してください。
- ii. 病名を残しておきたい場合、同じメッセージが再度のチェックのときに出ないようにするには、このメッセージ自体を**右**クリックすると[レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面が開きますので非表示の期間をボタンで設定します。詳細は D. [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面の説明を参照してください。

注意：

この「適応なし病名→転帰可能？：(病名)」のコメントは、この病名を適応とする検査、薬品が[設定]画面で設定される月数以上なかったということを示しているだけです。治癒、中止は医学的判断で状況に応じて行ってください。

処方欄で「記録のみ」の下にある薬品に対しての適応病名であれば「適応なし病名→転帰可能？：(病名)」のコメントは表示されません。すなわち、「記録のみ」の下にある薬品がしばらく実際には処方されていなくても、その病名の適応であれば、「適応なし病名→転帰可能？：(病名)」のコメントは表示されません。

「古い急性病名のみ適応」

(意味)

適応病名があるが、すべて[設定]画面で設定される月数以上古い急性病名である場合です。設定された月数が1の場合、1ヶ月前（前月）以前の開始の急性病名のみが適応病名である場合、このメッセージがでます。

(対応方法)

- i. 新しい病名が必要なら新しい病名を入力してください。
→「古い急性病名のみ適応：(薬名)」の
 メッセージそのものをクリックする
→[病名入力]画面がひらきますので、すでに説明したように新しい病

名を入力してください。

ii. このまま、古い急性病名を適応病名としていい場合、同じメッセージが再度のチェックのときに出ないようにするには、このメッセージ自体を $\boxed{\text{右}}$ クリックすると[レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面が開きますので非表示の期間をボタンで設定します。詳細は D. [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面の説明を参照してください。

「薬品の禁止病名あり」「注射の禁止病名あり」

(意味)

DYNA兼用禁止病名一覧に登録されている薬品/注射と対応する禁止病名があります。

(場合によっては減査定があるかもしれません。)

(対応方法)

i. 必要に応じ、薬品/投与を中止するか、病名を修正します。

ii. 薬品や注射、病名をとくに変更せず場合、同じメッセージが再度のチェックのときに出ないようにするには、このメッセージ自体を $\boxed{\text{右}}$ クリックすると[レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面が開きますので非表示の期間をボタンで設定します。詳細は D. [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面の説明を参照してください。

「特定疾患療養管理料をとれる特定疾患の主病名がありません。」

(意味)

特定疾患療養管理料を算定するには特定疾患の主病が必要です。

(参考)

特定疾患療養管理料は、別に厚生労働大臣が定める疾患を主病とする患者に対して、治療計画に基づき、服薬、運動、栄養等の療養上の管理を行った場合に、月2回に限り算定する。 「医科点数表の解釈」より

このメッセージが表示された場合

特定疾患を病名として入力し、主病マークをつけるか、

すでに入力されている特定疾患に主病マークをつけるか、
特定疾患療養管理料を削除してください。

CCIでは [個々のレセプトチェック] 画面の 右上の
病名欄で「主」ボタンを押すことで主病マーク（アスタリスク*
や アンダースコア_）を簡単につけることができます。

特定疾患であるか否かは同じく 病名欄右端の✓マークで
判定できます。特定疾患であるのに✓マークが
ついてないと判断した場合は自分で
✓マークをつけることもできます

「初・再診料や[実日数算定せず]の入力もれ？」

(意味)

点数が0でない日で、
初診料、再診料
もしくは
在宅患者訪問診療料、退院時共同指導料、開放型病院共同指導料
(これらは、初診料、再診料が併せて算定できません)
が 算定されておらず、
且つ、「実日数算定せず」の入力がない日があれば
このメッセージが出ます。

(対応方法)

必要に応じ、初診料、再診料、在宅患者訪問診療料、退院時共同指
導料、開放型病院共同指導料を算定するか、「実日数算定せず」を
入力します。

「生活習慣病管理料1(高血圧)に対する主病名なし」

「生活習慣病管理料1(脂質異常症)に対する主病名なし」

「生活習慣病管理料1(糖尿病)に対する主病名なし」

「生活習慣病管理料2に対する主病名なし」

(意味)

生活習慣病管理料の算定には対応する生活習慣病が主病名として必
要です。生活習慣病の病名が入力されていないか 主病名となってい
ない場合、このメッセージがでます。

(対応方法)

対応する生活習慣病を入力し主病名としてください。

もしくは既に入力されている生活習慣病を主病名としてください。

開始日にご注意ください。

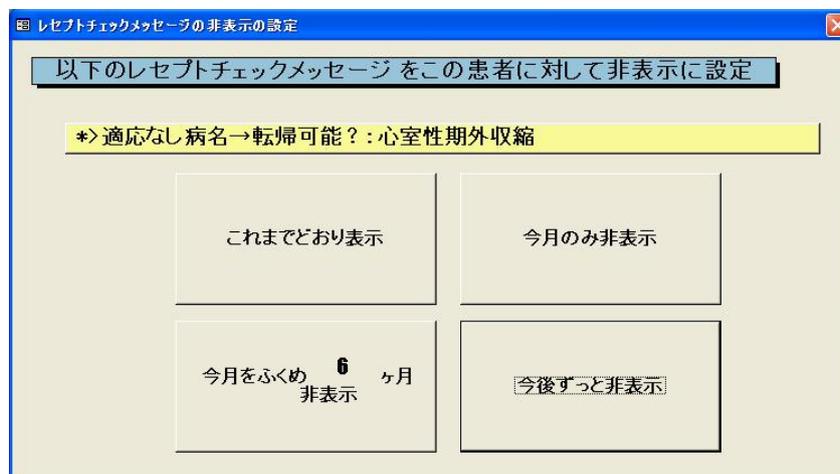
主病名とするには病名欄の「主」ボタンをご活用ください。

D. [レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面の説明

前段の C. [レセプトチェック結果]欄に表示されるメッセージの意味と対処方法の説明で述べたとおり、いずれの[レセプトチェック結果]欄のメッセージも非表示とすることができます。

非表示にしたいメッセージを右クリックすると、以下の[レセプトチェックメッセージの非表示の設定]画面が開きます。非表示にしたい期間を各ボタンでえらび、非表示とします。

[↓レセプト再チェック↓]ボタンを押し、非表示としたメッセージが消えることを確認してみてください。



<各ボタンの説明>

[これまでどおり表示]ボタン

非表示の設定をキャンセルしこれまでどおりレセプトチェックメッセージを表示します。

[今月のみ非表示]ボタン

このレセプトチェックメッセージをこの患者さんの今月分のレセプトチェックに限り表示しません。

[今月を含め ○ヶ月非表示]ボタン

月数を設定しボタンを押します。このレセプトチェックメッセージを今後指示月数の間、この患者さんのレセプトチェックに限り表示しません。月数の変更は保持されます。

[今後ずっと非表示]ボタン

このレセプトチェックメッセージをこの患者さんのレセプトチェックに限り永久的に表示しません

参考)

メッセージの非表示の設定は [tbl レセプトチェック除外項目]テーブルに保存されます。非表示設定を取り消す場合はこのテーブルの各レコードを直接 delete してください。

このテーブルの中の各フィールドの内容は以下のとおりです。

[年]および[月]：この年月で指定される月のレセプトまでレセプトチェックメッセージを非表示にします。「今後ずっと非表示の場合」は[年]に 9999 が入力されます。

[カルテ番号 10]：枝番を含むカルテ番号

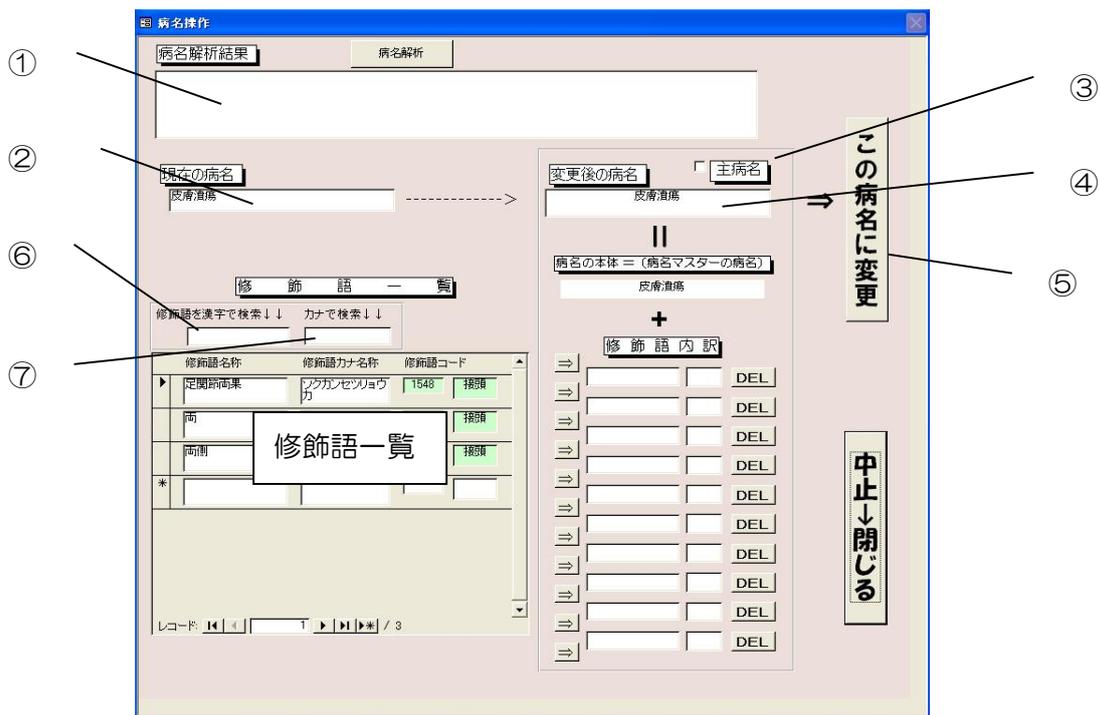
[除外項目]：非表示になるレセプトチェックメッセージ

E. [病名操作]画面の説明

病名入力ソフトと謳っている以上 CCI でも修飾語のコード込みの入力（および病名のコード化の手助け）のために[病名操作]画面をつくってみました。

[個々のレセプトのチェック]画面の病名欄の個々の病名ををクリックすると[病名操作]画面が開きます。

この画面では、クリックされた病名がコード化されるかの一応の判定をおこない、コード化された修飾語を付加できます。



① [病名解析結果]

[個々のレセプトのチェック]画面で右クリックされた病名がレセ電でコード化されない可能性がある場合、その理由を表示します。

(注) レセ電でコード化されるかどうかの判断は、当方がレセ電ダイナの中身を勝手に推測して判定していますので、決して100%正しいわけではありません。

たとえば、CCI がコード化されないと判断しても、コード化してもらえる場合もあります(「疑い」の手書き入力など)。また、接頭語を末尾に入力した場合、レセ電では自動的に語頭に置き換えて、コード化されることもあります。

[病名解析結果]に表示される“コード化されない理由”もコード化をさまたげる原因のひとつの可能性程度に考えてください。

[病名解析結果]の表示内容に問題ありとおもわれる場合はご教示いただければ助かります。

② [現在の病名]

現在、(右クリックされた)病名欄に入力されている病名です。

ただし、主病名マークがついていても、主病名マークはつかずに表示され、③の主病名のチェックボックスがチェックされます。

③[主病名]チェックボックス

(右クリックされた)病名欄に入力されている病名に主病名マークがついていれば自動的にチェックされます。

このチェックボックスにチェックが入っていれば[この病名に変更]ボタン⑤をおしたとき、病名に主病名マークが付加されます。したがって、変更後の病名に主病名マークをつけるかをこのチェックボックスで指定できます。

なお、付加される主病名マークの種別は、[設定]画面の右下[主病名マークの設定]欄で指定します。

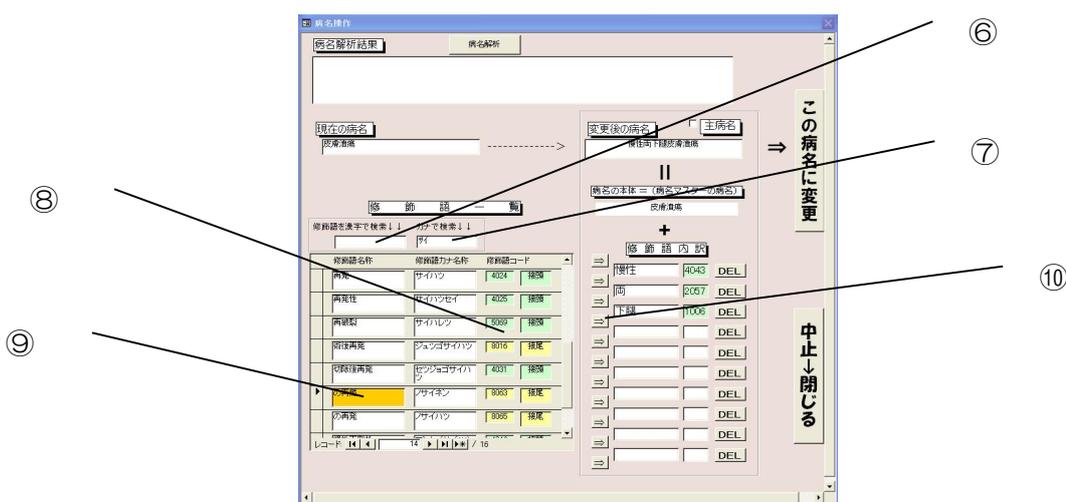
④[変更後の病名]

[この病名に変更]ボタン⑤をおすと入力される病名です。

この病名は患者病名のダイナコードおよび修飾語コードより合成されていますが、ここに病名が表示されていても、レセ電で病名がコード化されない場合もあります。(→ 病名マスターの厚生省名称が空欄の場合。[病名解析結果]の表示内容をご参照ください。)

左下には 新たに修飾語を入力するための [修飾語一覧]が表示されます。入力したい修飾語を表示するには⑥[修飾語を漢字で検索↓↓]もしくは⑦[カナで検索↓↓]に入力したい修飾語の一部を入力します。部分一致で検索され表示されます。通常は⑦[カナで検索↓↓]が便利です。

[修飾語一覧]の右端の欄には修飾語コードと その修飾語コードが接尾語 (コードが 8000 番台) か 接頭語 (コードが 8000 未満) かが 色分けして表示されます⑧。



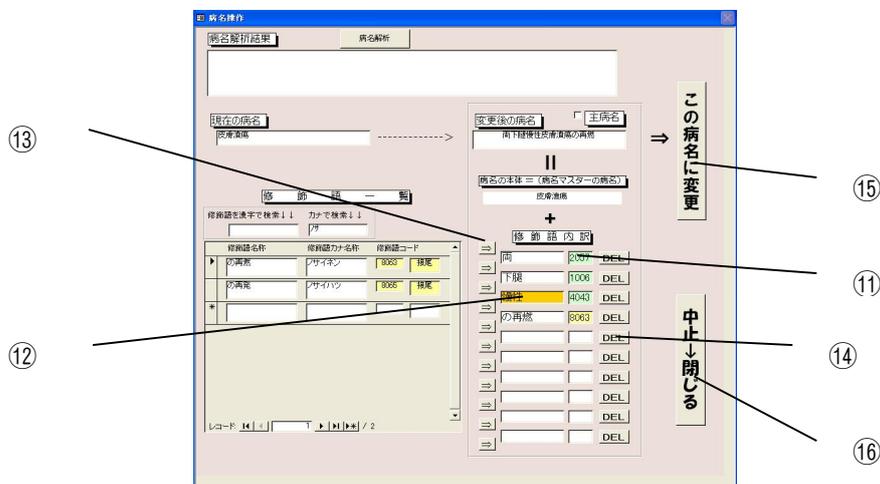
表示された修飾語の中から入力したい修飾語をクリックすると選択され黄色く表示⑨されます。右側の[修飾語内訳]の入力したい位置の矢印⑩をクリックして入力します。

注：接頭語を接尾語の後に、あるいは接尾語を接頭語の前には置けません。

(エラーメッセージが表示されます。)

なお、[修飾語一覧]に表示されている修飾語そのものをダブルクリックしても[修飾語内訳]に追加できます。この場合、接頭語はすでに入力されている接頭語の末尾（接尾語の直前）に、接尾語はすでに入力されている接尾語の末尾（修飾語全体の末尾）に付加されます。

入力された修飾語は右の[修飾語内訳]に表示されます。やはり、接頭語、接尾語が色分けして表示されます⑪。



すでに入力されている修飾語の位置を変えることも可能です。動かしたい修飾語をクリックして選択（黄色表示）⑫させ、移動先の位置の矢印ボタン⑬をクリックします。

注：接頭語を接尾語の後に、あるいは接尾語を接頭語の前には移動できません。

(エラーメッセージが表示されます。)

入力された修飾語を消すには ⑭[DEL]ボタンを押します。

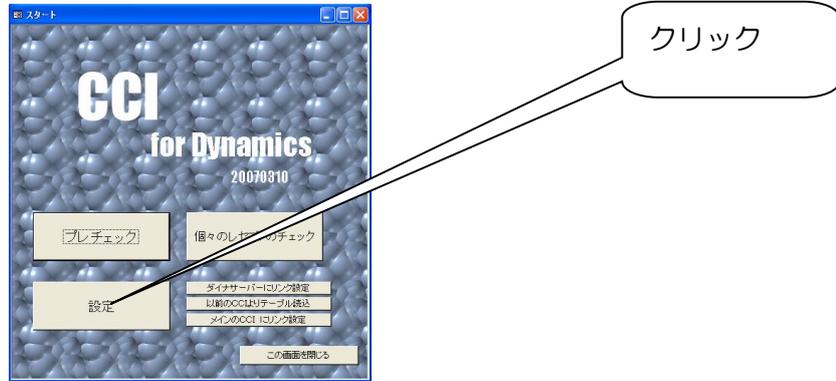
この[病名操作]画面は右側の⑮[この病名に変更]ボタン、もしくは⑯[中止→閉じる]ボタンを押さないと閉じることはできません。また、この画面を閉じないと他の画面は操作できません。これらは病名変更を確実に行っていただくための仕様です。

注. 修飾語の位置が 8000 番台接尾語以外は接尾語として置けないかどうかはつきり規定されてないこと、レセ電で手書き入力（未コード化傷病名コード 0000999）が許されてい

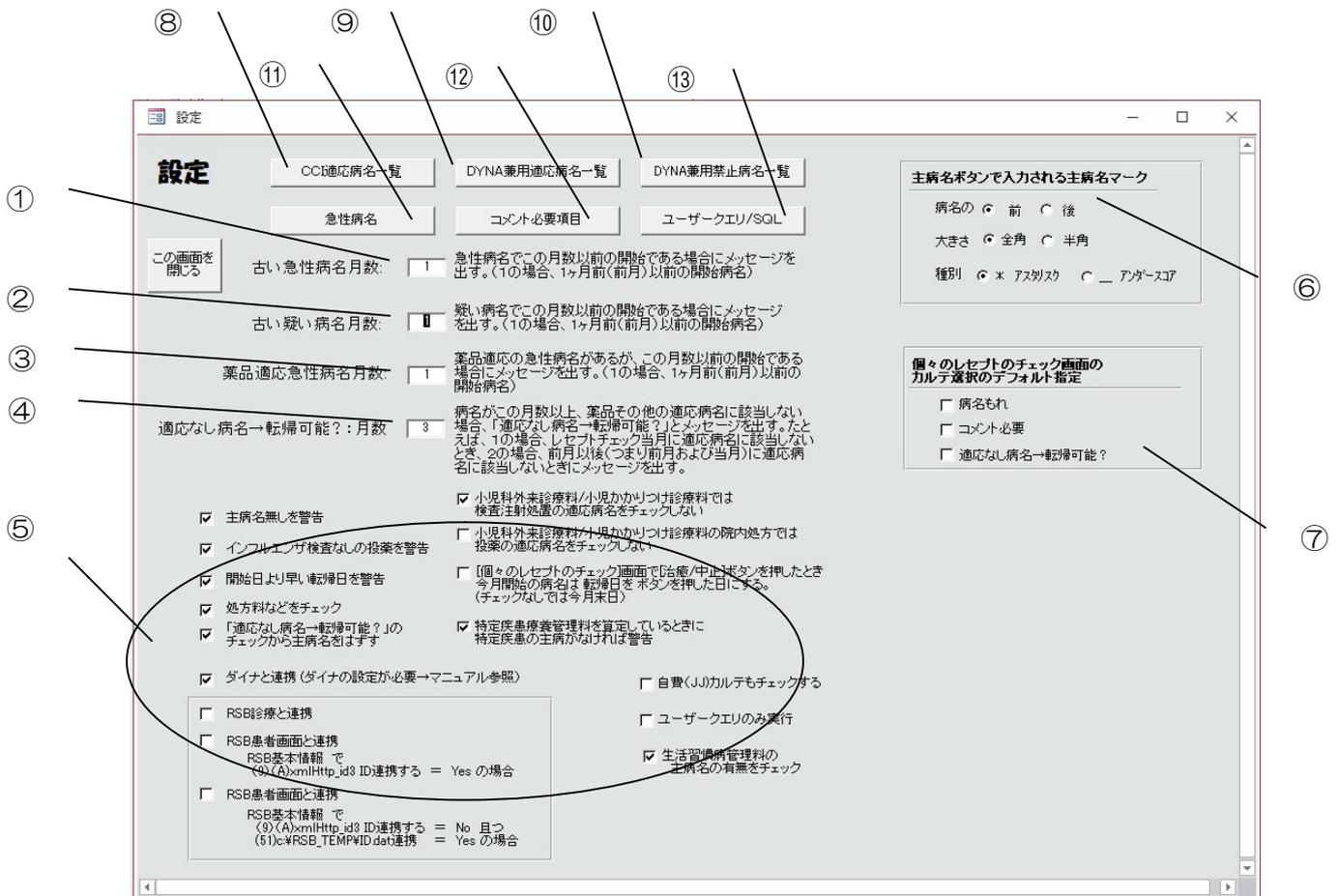
ること、レセ電ダイナでコード化されていない一部の病名にも救済処置がほどこされていることなど、病名および修飾語についてはファジーな面が多く、操作するプログラムを作る面では苦勞しました。この[病名操作]画面については不十分な面もあるかともありますがご意見お聞かせください。

Ⅶ. 各種設定

[スタート画面]から[設定ボタン]をおします。



[設定]画面が開きます。



A. レセプトチェックの定数の設定

この[設定]画面上の四つのテキストボックスで以下が設定できます。

① 古い急性病名月数

レセプトチェックにおいて、急性病名に該当する病名（*）があり、レセプトチェックしている月よりこの月数以前の開始である場合にメッセージ「古い急性病名：（病名）」が出ます。たとえば、設定された月数が1の場合、1ヶ月前（前月）以前の開始日の急性病名にたいしメッセージがでます。

（*）急性病名に該当するかの設定は **D**. 急性病名を参照してください。

② 古い疑い病名月数

レセプトチェックにおいて、疑い病名があり、レセプトチェックしている月よりこの月数以前の開始である場合にメッセージ「古い疑い病名あり：（病名）疑い」が出ます。たとえば、設定された月数が1の場合、1ヶ月前（前月）以前の開始日の疑い病名に対しメッセージが出ます。

③ 薬品適応急性病名

レセプトチェックにおいて、薬品適応の病名が、この月数以前の開始である古い急性病名（*）しかない場合にメッセージ「古い急性病名のみ適応」が出ます。設定された月数が1の場合、1ヶ月前（前月）以前の急性病名が対象となります。

（*）急性病名に該当するかの設定は **D**. 急性病名を参照してください。

④適応なし病名→転帰可能？：月数

病名がこの月数以上、薬品その他の適応病名に該当しない場合、「適応なし病名→転帰可能？」とメッセージが出ます。たとえば、設定された月数が1の場合、レセプトチェック当月に適応病名に該当しないとき、2の場合、先月以後（つまり先月および当月）に適応病名に該当しないときにメッセージが出ます。

B. オプションの設定（図中の⑤）

チェックボックスでいくつかのレセプトチェック/CCIの動作の設定が出来ます。

[個々のレセプトチェック画面]に表示する患者さんをダイナおよび RSB 診療もしくは RSB 患者画面に連携して表示するかも設定できます。

RSB 診療との連携は Chromium 版 Edge に対応しました。RSB の 20211014 版以降へのバージョンアップが必要です。

(RSBase との連携は山下郡司先生のご指導によるものです)

注：ダイナ連携のためには ダイナの [患者マスター] フォームのプロパティに以下の設定が必要です。

[ダイマー時] プロパティ： =RSB_TXT ()

[タイマー間隔] プロパティ： 1000

注：RSB 患者画面に連携する場合、RSB の基本情報の設定で

(9) (A) x m l Http_id3 ID 連携する = Yes の場合 と

(9) (A) x m l Http_id3 ID 連携する = No 且つ

(51)c:¥RSB_TEMP¥ID. dat 連携 = Yes の場合

の二つの場合があります。 RSB の設定を確認/設定の上 チェックボックスにチェックをいれてください。

C. 主病名マークの設定 (図中の⑥)

[個々のレセプト画面] 病名欄の [主] ボタンをクリックしたときに設定される主病名マークはダイナでは

- ・ 病名の前または後に
- ・ 全角 または 半角の
- ・ * (アスタリスク) もしくは _ (アンダースコア)

のいずれでも OK です。すなわち、2 x 2 x 2 の 8 通りの表示があります。この「主」ボタンを押したとき、この 8 通りのうち、どれを使うかをここで設定します。

D. [個々のレセプトチェック画面] のカルテ選択のデフォルト指定 (図中の⑦)

[個々のレセプトチェック画面] の右上のカルテ選択ボタンで使用する 3 つのオプションボタンのデフォルト値を設定します。

この設定により[個々のレセプトチェック画面]を開くときのカルテ選択がきまります。

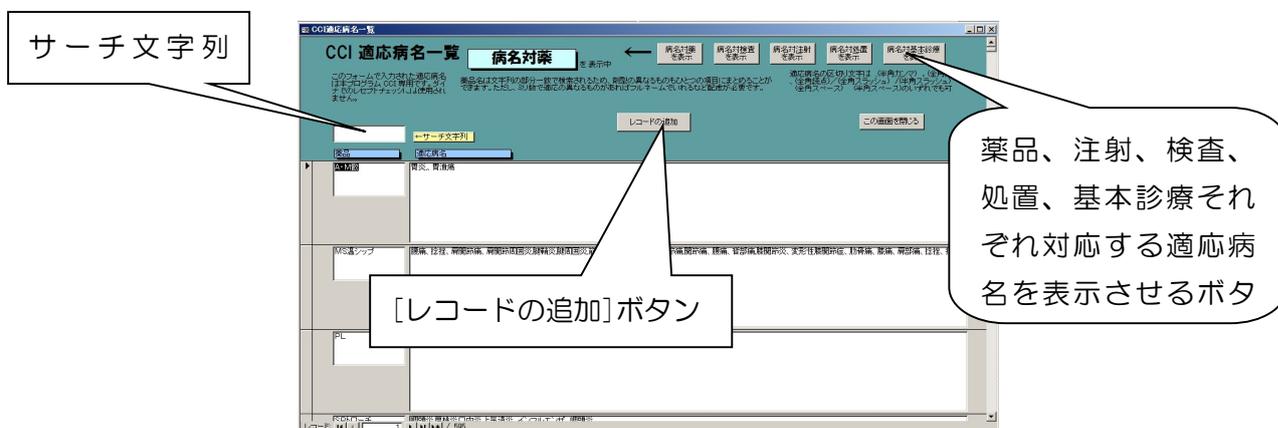
E. 適応病名一覧の整備

本ソフトには 2 種類の適応病名一覧があります。ひとつは C C I 専用の適応病名一覧 [C C I 適応病名一覧]、もうひとつはダイナ本体に先生方がすでに入力されている一覧をそのまま読み込んでつかう [ダイナ兼用適応病名一覧] です。どちらを使われても、また、両方を使われても構いません。それぞれの特徴がありますので、以下の両項の説明および

C C I 適応病名一覧とダイナ兼用適応病名一覧どちらをつかうべきかの項をごらんください。

i. C C I 適応病名一覧 (C C I 専用の適応病名一覧)

[設定] 画面の [C C I 適応病名一覧] (図中の⑧) ボタン もしくは [個々のレセプトのチェック] 画面 の [C C I 適応病名一覧] ボタン をクリックすると表示されます。



右上のボタンで薬品、注射、検査、処置、基本診療それぞれ対応する適応病名を表示させることができます。

[検索文字列]に薬品名などの一部をいれると入力された文字列を含む薬品名 (検査名、注射薬名、処置名) のみを表示します。

[レコードの追加]ボタンで新規の薬品などを入力できます。

薬品名などは「文字列の部分一致」で検索されるため、剤型の異なるものもひとつの欄にまとめることができます。たとえば、「ノルバスク錠2.5mg」、「ノルバスク錠5mg」はまとめて「ノルバスク」として入力できます。「ノルバスク錠2.5mg」、「ノルバスク錠5mg」はともにその中に「ノルバスク」を含み、「文字列の部分一致」をするとみなされるからです。

すなわち、CCIはダイナミクス各患者の処方「ノルバスク錠2.5mg」もしくは「ノルバスク錠5mg」があると、「適応病名一覧」を検索し、「文字列の部分一致」をする「ノルバスク」という項目を見つけ出し、その適応病名欄に入力されている病名がダイナミクスに入力されているか検索することになります。

適応病名も文字列の部分一致で検索されます。たとえば、上記のノルバスクの例でいえば、適応病名として、高血圧といれておけば、「文字列の部分一致」をする病名、たとえば、高血圧、高血圧症、高血圧(症)、本態性高血圧症、腎血管性高血圧、二次性高血圧などのすべてが適応病名とみなされます。

すなわち、

薬品の欄に ノルバスク その適応病名欄に 高血圧 を
入力しておけば

- ・「ノルバスク錠2.5mg」の投薬で高血圧症の病名を持っている人
- ・「ノルバスク錠2.5mg」の投薬で本態性高血圧症の病名を持っている人
- ・「ノルバスク錠5mg」の投薬で二次性高血圧症の病名を持っている人

などの組み合わせがOKとみなされます。

適応病名はひとつの薬品などにつき200個まで(65,536文字以内)入力できます。

適応病名の区切り文字は

、(半角カンマ) 、(全角カンマ) 、(半角読点) 、(全角読点)
/(全角スラッシュ) /(半角スラッシュ)
(全角スペース) (半角スペース) のいずれでも可です。

例 高血圧, 狭心症 (全角カンマ) といれても

高血圧 狭心症 (全角スペース) といれても可

おなじ名前でもミリ数などで適応の異なるものがあればフルネームで入れるなど配慮が必要です。

例として、アーチスト錠は、たとえば、

アーチスト錠1. 25mg 心不全

アーチスト錠2. 5mg 心不全

アーチスト錠10mg 高血圧、狭心症、心不全

などと別々に入れることになります。

また、ボルタレン錠とボルタレンゲルも適応が異なり、ボルタレンとまとめて入力せず、別々入力することになります。

薬品名などを登録しても病名チェックをせず、常に「病名チェック合格」とするには病名欄に* (アスタリスク、全角半角いずれでも可、いわゆるワイルドカード) を入力してください。

[CCI適応病名一覧]のうち、[病名対薬]については、論理式を用いた「複合病名」がチェックできます。

たとえば、カデュエットの適応病名 (添付文書では「高血圧または狭心症と、高コレステロール血症また家族性高コレステロール血症を併発している患者」となっています) を以下の様に表せます。

(高血圧 Or 狭心症) And (高コレステロール血症 Or 家族性高コレステロール血症)

(参考: 病名は 通常、文字列の部分一致で検索されますので
この場合は
(高血圧 Or 狭心症) And 高コレステロール血症
でも同じことになります。)

またザイロリックの適応病名 (添付文書では「痛風、高尿酸血症をと
もなう高血圧」となっています) を

痛風 Or (高尿酸血症 And 高血圧)

と定義できます。

論理演算子として And(論理積)、Or(論理和) 以外は殆ど使わないとおもいますが、Not (論理否定)、Xor(排他的論理和)、Imp (論理包含)、Eqv (論理等価) も使えます。 但し、AndAlso、OrElse は使えません。

論理演算子の表記は全角/半角、大文字/小文字 いずれでも また 混在も OK です。(たとえば、AND、AND、And など、いずれでも可です)。

病名や括弧、論理演算子の前後などのスペースはあっても無くても、2個以上続けてもかまいません。また、スペースは半角、全角いずれでも可です。

また、括弧は 全角の小括弧 () もしくは半角の小括弧 () を使用してください。

通常の病名と複合病名のいずれでも適応する場合には以下のように複数の行に入力することもできます。

注：この場合、複合病名は [C C I 適応病名一覧] のみにしか、入力できませんが、通常の病名の行は、[ダイナ兼用適応病名一覧] と [C C I 適応病名一覧] のいずれにも入力できます。

薬品名	適応病名
薬品 A	病名 A、病名 B、病名 C
薬品 A	病名 D and 病名 E

これは
(病名 A Or 病名 B Or 病名 C) Or (病名 D And 病名 E)
と同じ意味になります。たとえば、上記、ザイロリックの場合は

薬品名	適応病名
ザイロリック	痛風
ザイロリック	高尿酸血症 And 高血圧

と入力できます。

また、複合病名を2行以上にわけて入力することもできます・

薬品名	適応病名
薬品 A	病名 A and 病名 B and 病名 C
薬品 A	病名 D and 病名 E

この場合も

(病名 A、and 病名 B and 病名 C) OR (病名 D and 病名 E)
と 同じ意味になります。

通常の病名欄と複合病名欄に同じ病名が入っているときは、複合病名が優先します。たとえば、以下の例では通常の病名欄に入っている病名 C が 複合病名でも使用されています。

薬品名	適応病名
薬品 A	病名 A、病名 B、病名 C
薬品 A	病名 C and 病名 E

この場合、通常病名に入っている病名 Cは無視されます。すなわち、
病名 A or 病名 B or (病名 C and 病名 E)
が 適応病名とみなされます。

追記：

厳密には 上下の行の 薬品名 薬品 Aは文字列の部分一致で比較されます。すなわち、片方の薬品名が片方の薬品名を含めば上記のルールが適応されます。さらに上下の行の 病名 病名 C も同様に文字列の部分一致で比較されます。

このような仕様にしたのは、ダイナ本体の病名チェックと CCI での病名チェックの両方で病名をチェックされる先生がおられるためです。たとえば、ザイロリックを例にとりますと、ダイナ本体では複合病名のチェックは出来ませんが、[ダイナ兼用適応病名一覧]に、

薬品名	適応病名
ザイロリック錠 100	痛風 高尿酸血症

と入れておくと、ダイナ本体でも一応の病名チェックができます。
さらに、CCI 上で複合病名をもちいた厳格なチェックをするために、
[CCI 適応病名一覧]に

薬品名	適応病名
ザイロリック	高尿酸血症 And 高血圧

と入れておきます。すると、CCI の病名チェックでは、[ダイナ兼用適
応病名一覧] と [CCI 適応病名一覧]を見比べ、共通する「高尿酸
血症」は複合病名でのみ使うべきだと判断します。すなわち、CCI の病
名チェックでは適応病名を

痛風 Or (高尿酸血症 And 高血圧)

とみなし、厳格な適応病名チェックをします。

論理演算子 NOT を禁止病名 (たとえば「アクトスに対する心不全」) の
チェックに使用することは可能ですが推奨できません。たとえ禁止病名
が入力されていても、「薬品の適応病名なし」としか、メッセージが出な
いからです。禁止病名のチェックは「薬品の禁止病名あり」とメッセー
ジがはっきりと出る[ダイナ兼用禁止病名一覧]に入力されることをお勧
めします。

CCI の現バージョンでは論理式をもちいた複合病名は[CCI 適応病名
一覧]のうち、[病名対薬]のみで使用可能です。注射、検査などでは使
えません。

付記：複合病名による薬の適応病名は[ダイナ兼用適応病名一覧]には入
力できません。入力するとプレチェック時にエラーメッセージがでます。

このような仕様にしたのは、[ダイナ兼用適応病名一覧]に

たとえば

痛風 Or (高尿酸血症 And 高血圧)

などと入力すると

ダイナ本体での病名チェックにおいては、スペースが区切り文字

とみなされ、高尿酸血症 や 高血圧 も単独で適応すると判断されるためです。

付記：この論理式をもちいた複合病名の中の各病名は既述のとおり、通常は文字列の部分一致で検索されます。しかし、病名の語頭、語尾に前方一致文字『、後方一致文字』、任意の1文字を意味するワイルドカード？、任意の1文字の数字（0-9）を意味するワイルドカード#、任意の個数の文字を意味するワイルドカード*を使用することも出来ます。

前方一致文字『 を 病名の前につけると、その病名で始まる場合のみ一致したとみなされます。たとえば『高血圧は 高血圧症には一致しますが、腎性高血圧には一致しません。

後方一致文字』 を 病名の後につけると、その語で終わる場合のみ一致したとみなされます。たとえば高血圧』は 腎性高血圧には一致しますが、高血圧症には一致しません。

？ と # は病名の語頭、語尾以外、すなわち病名の語中でも使用可能です。

* は 語中に使用すると病名の判定を誤る可能性がありますので語頭、語尾以外には使用しないでください。また、語頭、語尾に何もつけない場合と * をつけたのとは同じこととなります。

ワイルドカード * # ? は全角、半角いずれでも可です。

これらの文字 『 』 * # ? は論理式をもちいた複合病名の場合のみ、使用可能です。通常の病名表記では使用できません。

参考) [C C I 適応病名一覧]は 以下のテーブルに記録されています。

tbl 薬品適応病名、tbl 注射適応病名、tbl 処置適応病名

tbl 検査適応病名、tbl 基本診療適応病名

これらのテーブルは薬品コードに依存しない（薬品名は「文字列の部分

一致」で検索される) ため、他の医院で使用されているテーブルをインポートすれば自院で直ちに使用可能です。

警告) このテーブルの中身は新規に CCI をインストールしたときは当院で使用しているままになっています。これまで、ダイナにも適応病名入力をされていないクリニックでは、そのまま、つかっても大きな問題はないとおもいますし、初期の使い心地は確認できると思いますが、[念のため、お約束の警告をしますと]**かならず目をおして、必要な修正をおこなってください。もちろん当方は運用結果に一切責任をもちません。**

警告) お使いの『薬品』で適応病名リストに載っていない場合はその旨メッセージが出ますが、他の項目:「注射」、「処置」、「検査」の各項目は適応病名リストに載っていない場合、何もメッセージがでません。

適応病名のもれチェックが必要と考えられる「注射」、「処置」、「検査」の各項目は必ず登録してください。もちろん、次項で説明するダイナ兼用適応病名一覧に入力されてもかまいません。

ii. ダイナ兼用適応病名一覧(ダイナ本体の適応病名一覧をそのまま使う場合)

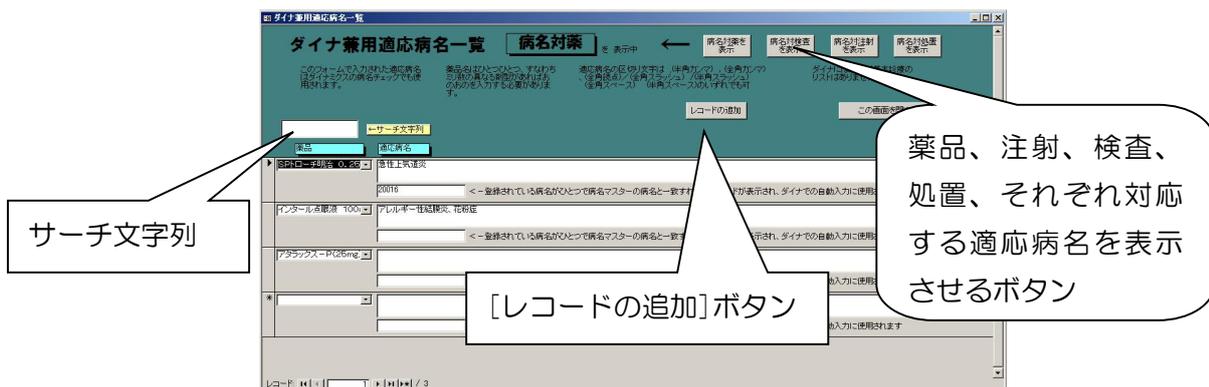
CCI ではダイナ本体の適応病名一覧もそのまま使用できます。これはダイナのテーブル: 病名対薬、病名対注射、病名対検査、病名対処置に記載されているもので CCI にリンクして使用されます。(ダイナには基本診療に対する適応病名の一覧はないようです。)

これらは、ダイナ本体では

ダイナの[スタート]画面 →
→ [メンテナンス]ボタン → [メンテナンス]画面 →
→ [薬対応病名]ボタンや[検査対応病名]ボタンなどで表示されます。

CCI ではこの一覧表は

[設定] 画面の[ダイナ兼用適応病名一覧] (図中の⑨) ボタン もしくは
[個々のレセプトのチェック]画面 の [ダイナ兼用適応病名一覧] ボタン を
クリックすると表示されます。



右上のボタンで薬品、注射、検査、処置 それぞれ対応する適応病名を表示させることができます。

検索文字列に薬品名などの一部をいれると入力された文字列を含む薬品名（検査名、注射薬名、処置名）のみを表示します。

[レコードの追加]ボタンで新規のレコードが追加され薬品などを入力できます。

ダイナの仕様上、この一覧表はダイナの[薬マスター]、[検査マスター]等に登録されている各薬品、検査のひとつひとつに対して登録することになっています。すなわち、薬品名はひとつひとつ、すなわちミリ数の異なる剤型があればおののを入力する必要があります。実際には[薬マスター]の各レコードひとつひとつに対応して入力するため、薬名をプルダウンから選択して入力する形になります。

(参考) 実際にダイナのテーブル：病名対薬などに入力されるのは、[薬コード]などであり、[薬名]などが入力されるわけではありません。

一方、適応病名は（前項の[CCI 適応病名一覧]と同じく）「文字列の部分一致」で検索されます。（詳細な説明は前項の[CCI 適応病名一覧]を参照してください。）

適応病名の区切り文字は

（ダイナミクス本体および[CCI 適応病名一覧]に於いてと同様に）
 , (半角カンマ) , (全角カンマ) 、 (半角読点) 、 (全角読点)
 / (全角スラッシュ) / (半角スラッシュ)
 (全角スペース) (半角スペース)のいずれでも可です。

但し、ダイナの仕様でこの欄に書ける適応病名は 20 病名まで、合計 200 文字以

- ・病名対薬品、病名対注射では病名欄の病名が空欄の時には
病名チェックは 対応病名なしと判断され、メッセージがでる
- ・病名対検査、病名対処置では病名欄の病名が空欄の時には
「病名チェック合格」となりメッセージはでない。

としています。

ダイナでは、検査、処置にたいしては、適応病名欄に数字を入力することで算定制限の警告を出す設定が行えます。この設定をした検査、処置にたいして、病名チェックを行うには、別の行にあらためて入力する必要があるようです。CCI もこの入力方法に対応するため、病名欄が数字だけの行は無視します。

参考) 上記のようにダイナのテーブル：病名対薬、病名対注射、病名対検査、病名対処置は薬名などがダイナの[薬マスター]のコードで記載されており、ダイナコードは各医院毎にちがいますので、他の医院で使用されているこれらのテーブルをそのままインポートして使用することはできません。

警告) 薬品は適応病名リストに載っていない場合はその旨メッセージが出ますが、他の項目は何もメッセージができません。必要と考えられる注射、処置、検査などは必ず登録してください。

CCI 適応病名一覧とダイナ兼用適応病名一覧どちらをつかうべきか

上記、[CCI 適応病名一覧]、[ダイナ兼用適応病名一覧]の各項で説明しましたとおり、[CCI 適応病名一覧]が以下の点で[ダイナ兼用適応病名一覧]より便利です。

- ・ 薬名などの検索が「文字列の部分一致」でなされる為、名称の本体のみを登録し、ミリ数、「錠」などの部分を登録しないことで
 - (1) 同じ名称の別のミリ数の薬などをまとめて登録できます。
 - (2) 名称がわずかに変わっただけで廃止薬となり新しい名称の薬品を新しいコードでマスターに登録した場合なども通常適応を登録しなおす必要はありません。
 - (3) 他院の適応病名のテーブルをそのまま使えます。

(実際、インストール直後の CCI は当院の CCI 適応病名一覧を含んでおり、そのまま使えます。)

- And, Or などであらわした複合適応病名が使えます。
([CCI 適応病名一覧]の中で薬に対してのみ使用可能です。注射、検査、その他では複合病名に対応していません。)
- 適応病名が各薬などに対し、200 個まで (65536 文字以内) 登録可能です。
([ダイナ兼用適応病名一覧]は 20 個、200 文字以内と制限があるようですが、実際には、複数行に入力することでこの制限はクリアできます。)

一方、[ダイナ兼用適応病名一覧]はダイナミクス本体でもつかえることが大きな特徴です。また、適応病名が一個のみ入力されていれば、ダイナミクスの中で自動入力が使えます。

すでにダイナミクス本体で適応病名を入力されている方はそのまま[ダイナ兼用適応病名一覧]をつかわれたらいかがでしょう。(この場合、インストール直後の CCI は当院の[CCI 適応病名一覧]を含んでいますのでこれらの内容を全部消去してください。ただし、当院の[CCI 適応病名一覧]を残し、CCI ではこの適応病名一覧もあわせて使用することも可能です。)

F. ダイナ兼用禁止病名一覧

CCI ではダイナ本体の薬禁止病名、注射禁止病名をチェックし、禁止病名が入力されている場合に警告がでます。この機能により、CCI をつかって病名入力したあとに、[↓レセプト再チェック↓]ボタンを押すことで、あやまって禁止 (禁忌) 病名を入力することも防ぐことができます。

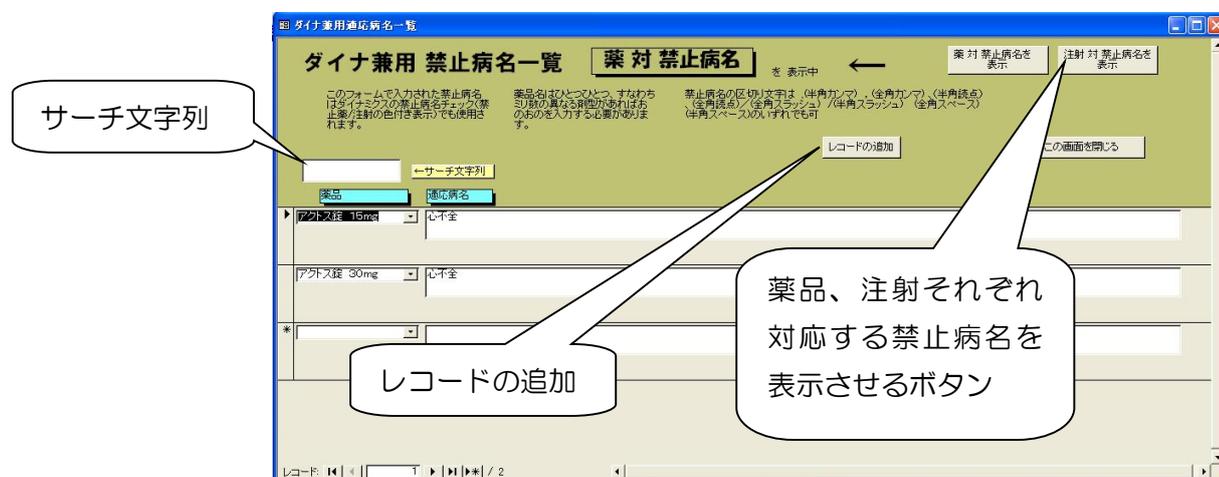
ダイナ本体では 薬禁止病名、注射禁止病名の一覧は、

ダイナの[スタート]画面 →
→ [メンテナンス]ボタン → [メンテナンス]画面 →
→ [薬禁止病名]ボタンや[注射禁止病名]ボタンなどで表示されます。

CCI ではこの一覧表は

[設定] 画面の[ダイナ兼用禁止病名一覧] (図中の⑩) ボタンをクリックすると

表示されます。



右上のボタンで薬品、注射 それぞれ対応する禁止病名を表示させることができます。

サーチ文字列に薬品名などの一部をいれると入力された文字列を含む薬品/注射名のみを表示します。

[レコードの追加] ボタンで新規のレコードが追加され薬品などを入力できます。

ダイナの仕様上、この一覧表はダイナの[薬マスター]に登録されている各薬品、検査のひとつひとつに対して登録することになっています。すなわち、薬品名はひとつひとつ、すなわちミリ数の異なる剤型があればおのおのを入力する必要があります。

(参考) 実際にダイナのテーブル：病名対薬禁止などに入力されるのは、[薬コード]などであり、[薬名]などが入力されるわけではありません。

一方、禁止病名は（前項の[CCI 適応病名一覧]と同じく）「文字列の部分一致」で検索されます。（詳細な説明は前項の[CCI 適応病名一覧]を参照してください。）

禁止病名の区切り文字は

- 、(半角カンマ) , (全角カンマ)
- 、(半角読点) 、(全角読点)
- / (全角スラッシュ) /(半角スラッシュ)

(全角スペース) (半角スペース)
のいずれでも可です。

G. 急性病名の一覧の整備

[設定] 画面の[急性病名]ボタン ([設定] 画面の図の⑩) をクリックするとクリックすると表示されます。



ここに登録した病名に部分一致で合致する病名は急性病名とみなされ「古い急性病名」「古い急性病名のみ適応」のチェックをおこないません。

詳細は A. レセプトチェックの定数の設定 ①古い急性病名月数
および③薬品適応急性病名の欄もご参照ください。

**警告) このテーブルの中身は新規に CCI をインストールしたときは
当院で使用しているままになっています。
かならず目をおして、必要な修正をおこなってください。**

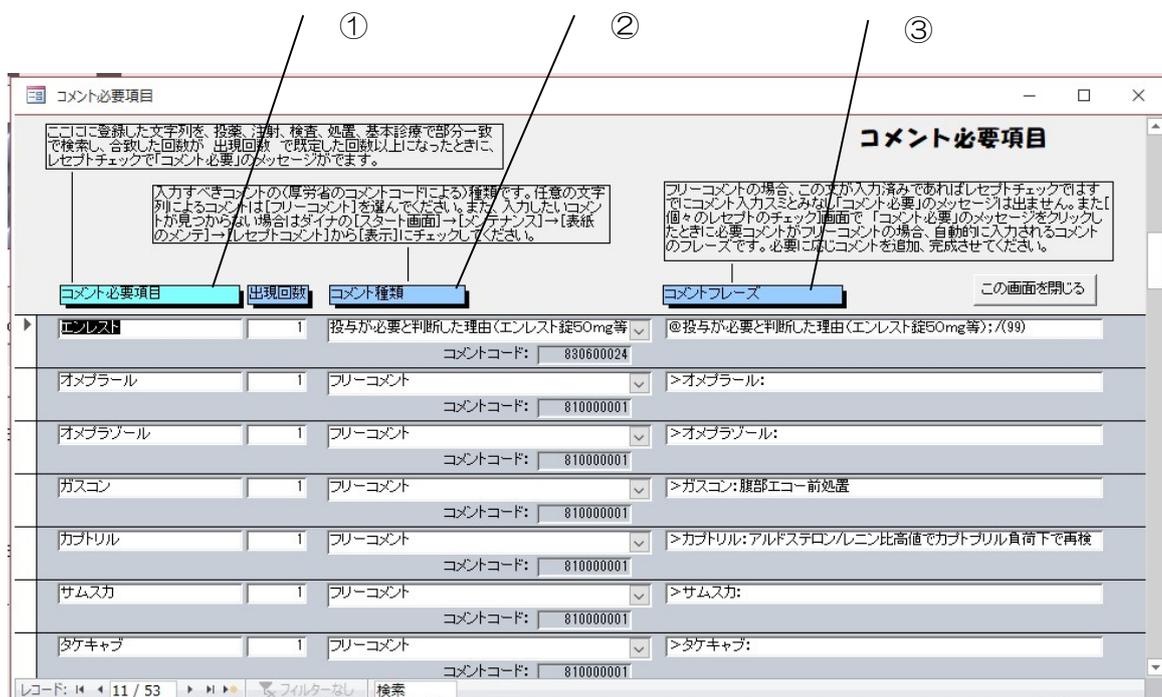
H. [コメント必要項目]の一覧の整備

CCI はコメントを必要とする項目があるにコメントがないとき、コメントもれを指摘し、さらに必要なコメントの入力を支援します。

一方、不要とおもわれるコメントが入力されているときは、そのことを指摘します。

コメントが必要な項目と それに対するコメントの文面を指摘するには[コメント必要項目]画面から行います。

[設定] 画面の[コメント必要項目]ボタン ([設定] 画面の図の⑫) をクリックすると[コメント必要項目]画面が開きます。



薬品、検査、基本診療項目、処置などすべての項目について、ここでコメント必要項目を設定します。

コメントの記載が必要な項目をこのテーブルの①[コメント必要項目]に文字列として記載します。チェックに際しては文字列の部分一致で検索されます。

注) コメント必要項目は、薬品、検査、基本診療項目、処置の中に入っていないか、文字列の部分一致で検索されます。

このため、一部不具合がおきることがあります。たと

例えば「特定薬剤治療管理料」は「特定薬剤治療管理料（4カ月目以降）」と区別できません。このため、語尾であることを指定するために、『語尾指定文字』を使用し『特定薬剤治療管理料』としてください。

（この『語尾指定文字』は、現時点では[コメント必要項目]画面のみで有効です。CCI の他の項目では使用できません。）

何回以上カルテにあらわれたらコメントを書く必要があるかを[出現回数]に記入します。[出現回数]以上にその項目が診療内容に現れると、レセプトチェックで「コメント必要項目：(項目名) -出現 () 回」のメッセージがでます。たとえば、必ずコメントの必要なもの（BNPなど。）は出現回数を1で入力し、月2回以上行った場合コメントが必要なもの（佐賀県では心電図など）は出現回数を2で入力しておきます。

（注）カルテ上の [出現回数] の カウントは
検査 処置 基本診療については
各レコードに表示される数量の値の和
薬品（処方）、注射については
レコード数（行数）としています。

[コメント種類] ②および [コメントフレーズ] ③で入力すべきコメントを指定します。レセプト電算化/選択式コメントの設定に伴い、コメントコードが割り当てられたものは [コメント種類] ②のプルダウンから選びます。

（注） [コメント種類] のプルダウンで入力したいコメントが見つからない場合はダイナの [スタート画面] → [メンテナンス] → [表紙のメンテ] → [レセプトコメント] から [表示] にチェックしてください。

コメントコードがなく、任意の文字列で記載されるものは [コメント種類] ②で「フリーコメント」を選びさらに [コメントフレーズ] ③に入力すべきコメントを記載します。

「フリーコメント」の場合、 [コメントフレーズ] ③は [個々のレセプ

トのチェック]画面で「コメント必要」のメッセージをクリックしたときに自動的に入力されるコメントの文頭です。実際のレセプトチェックに際しては、必要に応じこの [コメントフレーズ] の前後にコメントを追加、完成させてください。また、この [コメントフレーズ] が入力済みであればレセプトチェックではすでにコメント入力済みとみなし「コメント必要」のメッセージは出ません。

付記： ダイナ本体には「レセプト作成時に自動でコメントを付加する項目」があります。もちろん、これらの項目はここで登録する必要はありません。詳しくはダイナの説明書をごらんください。

一方、CCIは 不要なコメントが入力されているときに指摘してくれる機能も持っています。【コメント必要項目】が当月のカルテで出現回数に達していないのに指定されたコメントが入力されている（レセプトへ表示される設定となっている）ときには「不要コメント? :」として指摘されます。

以上、CCI の レセプトでのコメントのもれ と 不要コメントを指摘する機能については

本マニュアルの

C. [レセプトチェック結果]欄に表示されるメッセージの意味と対処方法

の中の

「コメント必要項目：(項目名) -出現 () 回」

「不要コメント?: (コメント種類:) (コメント)」

の項目もご覧ください。

注意)

フリーコメントにおいては必要なコメントの入力もれ、不要なコメントの存在を正確にCCI が判定するには【コメント必要項目】の各項目毎の「コメントフレーズ」の設定をユニークなものとすることが重要です。同じ「コメントフレーズ」を設定していると、あるコメント必要項目で 入れたコメントが他のコメント必要項

目で必要なコメントが入力されていると見なされたり、余分なコメントと見なされることがあります。

やむをえず同じ「コメントフレーズ」を設定するときはスペースやアンダーバーなどめだたないもので各項目のコメントフレーズで設定を変えてください。但し空白／アンダーバーなどの全角と半角は同じものとみなされますので注意してください。

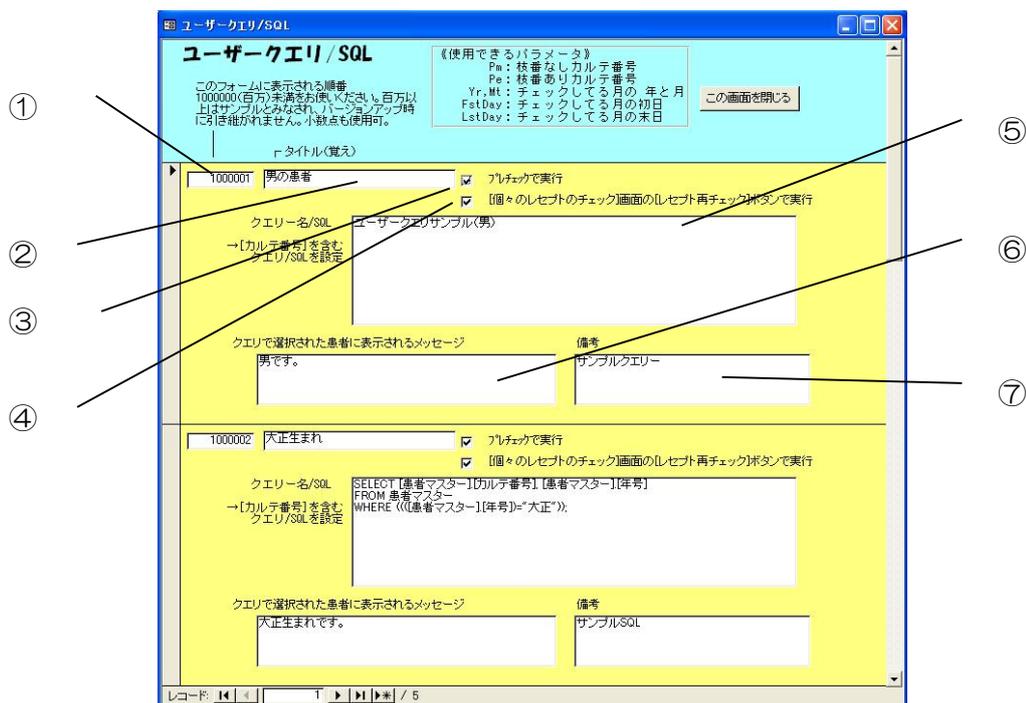
フリーコメント以外のコメントコードが指定されたコメントにおいては例えば選択式コメントなどコメントフレーズが指定されたもの（選択式コメントの@ が先頭についた文）があります。

コメントコードに対してコメントフレーズがとくに指定されておらずかつ同じコメントコードを複数の【コメント必要項目】に指定する場合は各項目ごとにユニークなコメントフレーズをつける事により、どの項目のためのコメントかをCCI が判定できるようになります。各項目ごとにユニークなコメントフレーズをつけない場合、あるコメント必要項目で入れたコメントが他のコメント必要項目で必要なコメントが入力されているとみなされたり、不要コメントとみなされることがあります。

警告) 新規に CCI をインストールしたときは、この【コメント必要項目設定】の設定は開発者が使用している設定になっています。かならず目をおして、ユーザーの医療機関に必要な修正をおこなってください。

I. 【ユーザークエリ/SQL】

【設定】画面の【ユーザークエリ/SQL】ボタン（【設定】画面の図の⑬）をクリックするとクリックすると表示されます。



⑤にユーザーがコメントを設定したいと考える患者さんを抽出するクエリ名もしくはSQL文を設定します。クエリの抽出結果には必ずカルテ番号（枝番つき）が一回あらわれるようにしてください。

⑥に ⑤で指定したクエリ/SQLで抽出された患者さんの「レセプトチェック結果」欄に表示されるメッセージを設定します。

<参考>

⑥で指定されるメッセージ中にはクエリに現れるフィールドの値を指定することができ、フィールド名を「」で囲んで示します。

たとえば

「検査項目名」が「受診日」にあります

などとメッセージを指定できます。詳細は「メッセージ中でのフィールドの値の表示法」をご覧ください。

①はこのテーブルに表示される順番。

1,000,000未満を使用してください。1,000,000以上はバージョンアップ時、新しいCCIにひきつがれません。(1,000,000以上はサンプルを当方より提供するときにつかいます。)

②はタイトル（この画面のみの表示。ユーザーの覚え書き用です。）

⑦は備考（この画面のみの表示。ユーザーの覚え書き用です。）

③は [プレチェックで実行] チェックボックス。

このチェックボックスにチェックが入っていると、そのユーザクエリはプレチェックで実行チェックされます。

プレチェックでは、パラメータ [Pm]、[Pe] が使われてなければ、クエリはプレチェック全体で一回のみ実行されます。一方、パラメータ [Pm]、[Pe] が使われていれば、プレチェックの各患者毎に繰り返し実行されますので、複雑なクエリでは体感的に相当の時間がかかる可能性があります。したがって、プレチェックで使うクエリは、パラメータ [Pm]、[Pe] を使わないように工夫することが望まれます。

④は『[個々のレセプトのチェック]画面の

[レセプト再チェック]ボタンで実行』] チェックボックス。

このチェックボックスにチェックが入っていると、[個々のレセプトのチェック] 画面の[↓レセプト再チェック↓]ボタンがクリックされるごとにクエリを実行します。したがって、複雑なクエリでは体感的に多少時間がかかる可能性があります。このときは、もしチェックが不要ならこのチェックボックスをはずしてください。

メッセージ中でのフィールドの値の表示法

⑥で指定されるメッセージ中にはクエリに現れるフィールドの値を指定することができ、フィールド名を [] で囲んで示します。たとえば

[検査項目名] が [受診日] にあります

などとメッセージを指定できます。

使用例としては、ユーザクエリのサンプル

- ・ フリガナに 'マ' の字を含む
- ・ 他枝番受診あり

などをご参照ください。

なお、複数のテーブルからの同じ名前のフィールドがあるときは、[テーブル名].[フィールド名]といった形での指定はできません。どのテーブルのフィールドかを特定するために、このフィールドに別名をつけ、それを[]内に記述します。

この別名の指定は、クエリ内では演算フィールドの形にして、また、SQL の中では AS 別名 として、行います。これらの別名を指定する方法は、次の項目 **他の枝番内での検索を行うユーザークエリのサンプル** で解説に使用されるユーザークエリのサンプル「他枝番受診あり」、ユーザ SQL のサンプル「他枝番で HbA1c 検査あり」にその例がありますのでご参照ください。

なお、[]の中がフィールド名でない場合（フィールド名をあやまって指定した場合も含む）は [] とその中の文字列がそのまま表示されます。

ユーザークエリで使えるパラメータ

以下のパラメータはユーザークエリ/SQL で [] （半角大カッコ）でかこむことで使用できます。すなわち、CCI が自動的にパラメータを実際の値に置き換えてクエリを実行します。

Pm：枝番なしカルテ番号（m は 幹番（みきばん）、Main の意味）

Pe：枝番ありカルテ番号（e は 枝番、Extension の意味）

Yr,Mt：チェックしてる月の 年と月

FstDay：チェックしてる月の初日

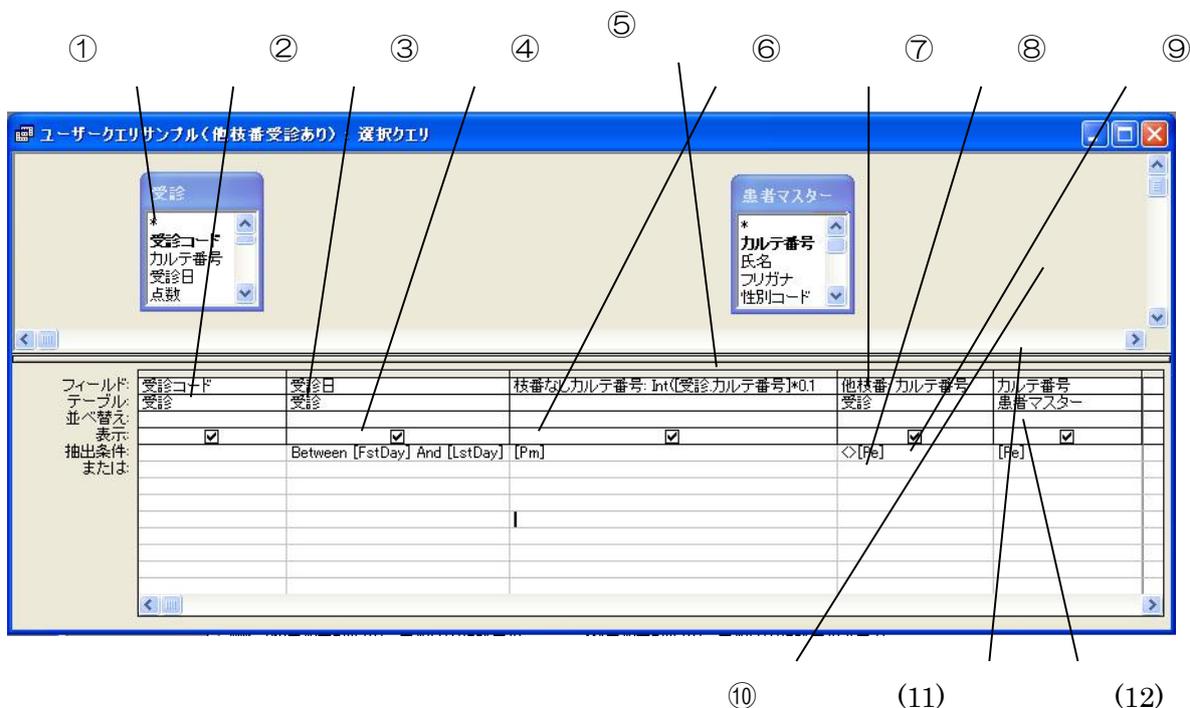
LstDay：チェックしてる月の末日

なお、SQL 文でも 上記パラメータを [] （半角大カッコ）でかこむと、PARAMETERS 句での宣言はいりません。

他の枝番内での検索を行うユーザークエリのサンプル

パラメータ [Pm]：枝番なしカルテ番号を使うことで、他の枝番内での検索を実行できます。ユーザークエリサンプル「他枝番受診あり」、ユーザ SQL のサンプル「他枝番で HbA1c 検査あり」はこの例です。この種のクエリの作成には注意すべき点があります。ユーザークエリサンプルのサンプル「他枝番受診あり」を例に説明します。

下記はユーザクエリサンプル（他枝番受診あり）をデザインモードで開いた画面です。（説明のために、自動的に表示される配置を少し変更しています。ご注意ください。）



このクエリは同月に他の枝番で受診があるかをチェックするものです。
まず、他の枝番の今月の受診コードを検索するクエリをつくります。

[受診]テーブルをクエリに追加します。（図中①）

フィールドに受診コードを追加します。（図中②）

フィールドに受診日を追加します。（図中③）

→ 受診日の抽出条件に、受診日がチェックしている月の初日 [FstDay] と
チェックしている月の末日 [LstDay] の間にある条件

Between [FstDay] And [LstDay]

を設定します（図中④）。

枝番なしカルテ番号を表示する演算フィールドをつくり、枝番なしカルテ番号を計算する式

Int ([カルテ番号]*0.1) を設定します（図中⑤）。

- 抽出条件に現在チェック中のカルテの枝番なしカルテ番号、すなわちパラメータ[Pm]と同じである条件
[Pm]
を設定します（図中⑥）。

フィールドにカルテ番号を追加します。（図中⑦）

- 現在、CCI でチェック中の枝番カルテを除いて検索することになると
〈〉 [Pe] （図中⑧）

を抽出条件に設定します。

CCI では、ユーザクエリの条件にあてはまったかをチェックするときに、カルテ番号を元に調べます。しかし、図中⑦のカルテ番号は、チェックしているカルテ番号とは別の枝番ものになります。このため、図中⑦のカルテ番号の名前を「他枝番」と変更していることに注意してください。

ただし、「クエリーで選択された患者に表示されるメッセージ」にこの枝番のカルテ番号の値を表示しないときは表示のチェックをはずすだけでもかまいません。

これでクエリの本体は完成しました。しかし、上記の様に、CCI では、ユーザクエリの条件にあてはまったかをチェックするときに、カルテ番号（枝番つき）を元に調べます。したがって、このクエリにさらに、現在チェック中の枝番つきカルテ番号をクエリに付加することが必要です。このために、以下の様に[患者マスター]テーブルとの直積（クロス結合）を使います。（「直積」については、参考図書をごらんください。）

まず、[患者マスター]テーブルをクエリに追加します（図⑩）。このとき[受診]テーブルとの間に[カルテ番号]フィールド同士を結ぶ結合線が表示されますがこれを右クリックして削除します。

（両者のカルテ番号は枝番が異なる別のものだからです。）

次にフィールドに[患者マスター]テーブルから[カルテ番号]ドラッグして追加します。（図(11)）

→ 抽出条件に 現在チェック中の枝番つきカルテ番号[Pe]を設定
(図(12))

以上で、クエリ「他枝番受診あり」の完成です。

作成のポイントを復習しますと、

- ①枝番無しカルテ番号の計算 $\text{Int}([\text{受診.カルテ番号}] * 0.1)$ と
その抽出条件 [Pm]
- ②現在チェック中の枝番以外の枝番をしめすための
カルテ番号<>[Pe] の条件の設定
このカルテ番号は現在チェックしている枝番以外の枝番ですから
名前を付け替えていること（ここでは「他枝番」と命名）にも
注意してください。
- ③直積による現在チェック中の枝番つきカルテ番号[Pe]の付加

ということになります。

なお、直積をとる前のクエリでひとつでもレコードが抽出されると、直積で枝番つきカルテ番号がかならず付加され、CCI は、チェックする条件が成立したと判断します。チェックする条件が満たされないときはレコードがひとつも抽出されないようにクエリを作成してください。

他の枝番内での検索を行うユーザーSQLのサンプル

以下はユーザ SQL のサンプル「他枝番でHbA1c 検査あり」です。この SQL も上記のユーザクエリと同じ注意のもとに作られています。

SELECT

患者マスター.カルテ番号, 受診.カルテ番号 AS 他枝番,
受診.受診コード, 受診.受診日,
 $\text{Int}([\text{受診.カルテ番号}] * 0.1)$ AS 枝番なしカルテ番号,
受診検査.検査項目名

FROM

患者マスター,
受診 INNER JOIN 受診検査 ON 受診.受診コード = 受診検査.受診コード

WHERE

(患者マスター.カルテ番号)=[Pe]
AND (受診.受診日) Between [FstDay] And [LstDay]
AND Int((受診.カルテ番号)*0.1)=[Pm]
AND (受診.カルテ番号)<>[Pe]
AND (受診検査.検査項目名)="HbA1c"

VIII. 使用上のヒントなど

[個々のレセプトのチェック]画面では病名などの修正を行ったら[↓レセプト再チェック↓]ボタンを押して修正が適切か確認してください。このやり方は、「薬品の適応病名なし：(薬品名)：(日付)」などが多数表示されているときにとくに有効です。

たとえば、ひとつ代表的な薬の「適応病名なし」のコメントをクリックして、病名入力画面に移り病名を入力。自動的に[個々のレセプトのチェック]画面にもどりますのでそこで[↓レセプト再チェック↓]を押すと、入力した病名を適応病名とする薬品・検査に対する「適応病名なし」のコメントが消えます。そこで残った「適応病名なし」のコメントをクリックしさらに病名を入れていきます。入力した病名がどの薬・検査をカバーしているか、自分の頭で考えることなく入力ができます。

毎日レセプトチェックをされる先生、月終わりにされる先生など、やり方はいろいろあるかと存じます。当ソフトでは一日分のカルテのプレチェックは 15 秒程度で終了しますので、気軽に毎日チェックし、月末にまとめてもう一度最終チェックするという方法もあるかと存じます。

2019 年 5 月、元号が令和にかわります。ダイナは病名欄のみ 和暦形式の日付データとなっています。このため、2019/4 月バージョンで CCI も新元号に対応しました。元号データは [tbl 和暦]テーブルに保存されています。

IX. おわりに

おかげさまで、CCI は発表以来、多くの先生方にお使いいただいているようです。CCI の最大の売りである、「ワンクリックで適応病名が表示され、さらにワンクリックでその中から病名を入力できる点、さらにワンクリックで再度のチェックを行える点」は、病名入力

ストレスを大きく軽減できるものと存じます。是非、お試しください。

このソフトは元来、当クリニック内での使用を目的に作りました。その後、多くの先生のご助言により、かなりの進歩を遂げることができました。改良すべき点、バグなどお気づきの点があればご教示いただければ幸いです。全てのご要望に対応することは不可能と存じますが、当方のできる範囲で、対応したいとおもいます。

久納 隆一

ひさのう循環器科内科

849-0937 佐賀県佐賀市鍋島1丁目5-1

電話 0952-33-0020

ファックス 0952-33-1661

メール fwhz1852@mb.infoweb.ne.jp